

次期「京都市都市計画マスタープラン」素案に対する市民意見募集の結果について

本市では、京都の将来像を都市計画の観点から具体化した、長期的視点に立った都市づくりの将来ビジョンである「京都市都市計画マスタープラン」に基づく都市づくりを進めてきました。

現行の京都市都市計画マスタープランが計画期間を迎えることや、今後25年間の市政の基本方針を示した上位計画「京都基本構想」の策定を受け、京都市都市計画審議会に「都市計画マスタープラン部会」を設置し、昨年7月から5回の会議において議論を進めていただきました。

部会での議論や京都基本構想の内容等を踏まえて取りまとめた次期「京都市都市計画マスタープラン」の素案について、市民の皆様幅広く御意見を募集し、この度、市民意見募集の結果を取りまとめましたので、御報告いたします。

1 市民意見募集の概要について

(1) 募集期間

令和8年4月24日（金）から5月31日（日）まで

(2) 周知方法

- ・市民しんぶん全市版（令和8年5月1日号）への掲載
- ・市民意見募集冊子について、市民しんぶん全市版（令和8年5月1日号）との同時配送による各戸回覧を実施
- ・市民意見募集冊子の配布（市役所案内所、情報公開コーナー、各区役所・支所、市立図書館、京都市景観・まちづくりセンター等）
- ・ホームページ（京都市情報館）、公式SNS等への掲載

(3) 意見募集結果

ア 意見書数及び意見数

意見書数：436通 意見数：1,641件

イ 御意見をいただいた方の属性

別紙1のとおり

ウ 御意見の内訳

項 目		意見数
1	素案全般について	60
2	「第1章 都市の将来像」について	279
3	「第2章 テーマ別方針」について	428
4	「第3章 エリア別指針」について	707
	全般	202
	北部方面	144
	都心部方面	131
	東部方面	51
	南部方面	63
	西部方面	116
5	「第4章 実現方策」について	78
6	その他	89
合 計		1,641

エ 主な御意見の内容と御意見に対する本市の考え方

別紙2のとおり

2 今後の予定

令和8年7月頃 都市計画審議会への案の付議

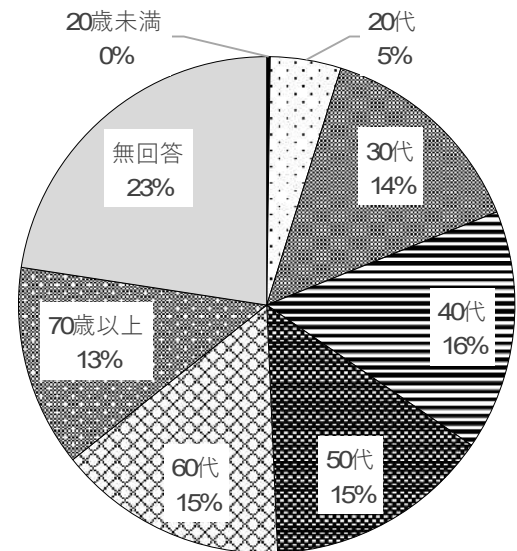
次期「京都市都市計画マスタープラン」の策定

参考資料：市民意見募集冊子

次期「京都市都市計画マスタープラン」素案に対する
御意見をいただいた方の属性

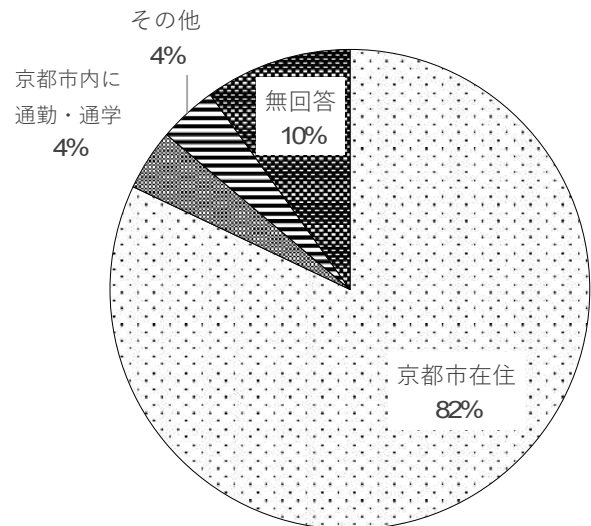
1 年齢

区分	通数	割合(%)
20歳未満	1	0
20代	20	5
30代	61	14
40代	68	16
50代	64	15
60代	65	15
70歳以上	57	13
無回答	100	23
合計	436	100



2 お住まい等

区分	通数	割合(%)
京都市在住	356	82
京都市内に通勤・通学 (市外在住)	18	4
その他	17	4
無回答	45	10
合計	436	100



※ 割合は、小数点以下を四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。

次期「京都市都市計画マスタープラン」素案に対する
主な御意見の内容と本市の考え方について

1 素案全般について（60件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2050年に向けて「こういうまちであり続けたい」というビジョンが伝わり、時間をかけて作成されたものだと感じた。 ・ よくまとめられていると思う。マスタープラン作成に当たり、京のまちを自らの足で歩いたことによる発見や気づきをこれからのまちづくり、くらしづくり、ひとづくりに活かしてほしい。 ・ 課題認識や基本姿勢は一定理解できる方向性だが、これらの理念が今後の都市づくりにどのように反映されていくのかについては、やや抽象的に感じられる。 ・ 理念の実現には、現場の実態を踏まえた具体的かつ実効性のある施策が不可欠。京都が「住み続けられる都市」であり続けるために、本計画がより実効性の高いものとなることを期待する。 <p style="text-align: right;">など</p>	60	<p>次期都市計画マスタープラン素案（以下「本プラン」という。）については、令和7年に策定された市政の基本方針である「京都基本構想」が示す「わたしたち京都市民がめざすまち」を都市計画の観点から具体化する、長期的視点に立った都市づくりの将来ビジョンです。また、本プランでは、市内各エリアのまちの特性「まち柄」をいかした個性あふれる魅力的なまちづくりを進めるため、各エリアのまち柄と将来像の記載を大幅に充実しました。</p> <p>都市の将来像の実現に向けた具体的な施策等については、市民や事業者をはじめとする多様な主体と協働しながら、「新京都戦略」や各分野別の計画とも連携し、着実に進めてまいります。</p>

2 「第1章 都市の将来像」について（279件）

※ 表中のページ番号は、市民意見募集冊子の該当箇所を示しています。（以下、同じ。）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
<p>「都市計画の理念」に関すること（p.3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 未来もまた、いつかは歴史の一部になるという強い自覚を持つ意識改革が必要。次世代に対して、単に過去のものを残すことだけが歴史を守ることではない。現代の私たちが、2050年という未来に向けて、新たな価値を創造する「飛躍」の歴史を刻むことこそが、真の継承に繋がると考える。 規制ばかりや、開発ばかりにならず、時代の状況やまち柄に合わせて柔軟に変えていってほしい。景観は京都の大切な資本であり、将来世代に引き継いでいくことはとても重要だが、足元の経済が不安定では持続可能でない。色々な意見は当然あるだろうが、バランスをとって現実的に対応してほしい。 都市が成長し活力や賑わいのある、かつ関西や日本をリードする都市であることが必要。 今回の計画は、エリア別指針が大幅に拡充され、「ラーメン街道」や「山科義士まつり」といった市民感覚で分かりやすい記述もあって大変いい計画だと思っているが、難解な表現を用いているのが残念。もっと一般の市民にもわかりやすい表現としてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	11	<p>本プランは、京都基本構想に示す京都の将来像を都市計画の観点から具体化する、長期的視点に立った都市づくりの将来ビジョンです。</p> <p>京都は、平安京建都以来、1200年以上もの間、守るべきものは守りつつ、ときには異なる文化や新たな技術も積極的に取り入れながらたくましく乗り越え、時代に応じ常に個性のある「まち」を築いてきた、たゆまぬ「継承」と「挑戦」、そして「飛躍」の歴史があります。</p> <p>これら、京都の誇りある歴史を受け継ぎ、伝統と革新、まちと自然、そして多様な文化など、ともすれば対立的に捉えられやすい事柄の調和あるいは融合を図りながら、未来に向けて京都のまちが世界の中で確かな存在感を持ち続けられる都市づくりに挑んでまいります。</p> <p>京都基本構想は、京都のまちの羅針盤として、京都市とわたしたち京都市民の今後四半世紀の在り方を展望するものであり、長い歴史の中で大切に育み、伝え遺してきた価値観を示しています。そのため、理念的な内容であるとともに、京都の思想・価値観を示すためにふさわしい表現を用いております。第1章については、この京都基本構想の理念をしっかりと伝えるため、構想と同様の表現を使用しています。一方、第3章についてはより身近に感じていただけるよう、表現の工夫をしております。</p>
<p>「都市計画に関する基本的な考え方」に関すること（p.3～5）</p>	124	
<p>【守る×伸ばす（メリハリ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期的な利便性や経済性だけでなく、100年後も京都が京都であり続けるための景観形成と土地利用のあり方を重視してほしい。 豊かな暮らし・文化、景観などを守っていくためにも、経済的豊かさがベースとして必要であり、そのためには都市計画もメリハリが必要である。 人口的には「市街地の規模は拡大しない」なのかも知れないが、産業の視点では、AIやIoTの成長は凄く、産業基盤の成長のための「市街地規模の拡大」はあり得るのでは。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>緑深い山々や美しい川の流れをはじめとする豊かな自然、京都ならではのまちの景観を大切にしながら、本市が今後も発展を続けられるよう、守るところは守り、伸ばすところは伸ばす、バランスに配慮したまちづくりを進めてまいります。</p> <p>また、人口動向を踏まえ、市街地の規模は拡大しないことを基本としますが、市街化調整区域では、既存集落をはじめとする地域の定住人口の確保や、産業用地を維持・創出するなど、地域の将来像の実現にふさわしい土地利用の誘導を図ってまいります。</p>

<p>【まち柄×アップデート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「まち柄」とは行政が定めるものではなく、そこに住まう住民たちが議論して決めていくものであり、一方的にまち柄を与えることには違和感がある。 職住近接を追求することは一つの理想だが、それによって公共交通の需要が減少すれば、交通局の経営を圧迫し、将来的なインフラ維持が困難になる恐れがある。都市全体の持続可能性の観点から、単なる近接ではなく、広域的な移動を支える公共交通とのバランスを慎重に検討することを期待する。 スクラップ・アンド・ビルドの時代は終わらせましょう。これからは、いまある建物をリフォームする、リユースすることに主眼を置いたまちづくりをするべき。 スクラップ・アンド・ビルドを悪者にしすぎ。もちろん改修も良い面は多くあるが、例えばオフィス天井高など、既存改修では実現できない空間を作る場合など、大胆な変化が必要な場合には、スクラップ・アンド・ビルドも必要。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>「自分たちのまちは自分たちでつくる」といった、住民自治の高い志が、市内各地域の個性あふれる「まち柄」を形作ってきました。このまち柄をいかしながら、今後もこうしたまちの在りようが受け継がれ、また更なる発展が図られるように取り組んでまいります。</p> <p>これからの時代に合った職住共存・職住近接の形を追求し、例えば徒歩や自転車利用の圏内で生活と仕事を両立できるまちは、目指すべきひとつの姿であると考えております。暮らしに不可欠な生活交通を維持・確保しつつ、まとまった域内で日々の営みを完結させられる暮らし方を望む人々に、活動の拠点として選ばれるまちを目指してまいります。</p> <p>スクラップ・アンド・ビルドの考え方は、時として、価値あるものを末永く大切にす文化が受け継がれてきた京都のまちづくりにおいては、相応しくない場面もありますが、建築物等が必要に応じて適切にアップデートされるよう取り組むことで、まちの魅力や活力の維持・向上を図ってまいります。</p>
<p>【コンパクト×ネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動性、利便性の低さが、京都の成長、ポテンシャルの活用を大幅に阻害しているように感じる。各地域の発展計画はいいが、それを支える交通インフラの再計画、整備を急ぐべきではないか。 京都都市圏の成長のため、積極的に役割を果たすべき。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>本市では、鉄道や幹線道路が交通ネットワークの中で大きな役割を果たしております。それらを中心として形成された都市軸をいかしながら、京都ならではのコンパクトでまとまりがある、災害にも強いまちづくりを進めてまいります。</p> <p>また、近隣都市との一体性や相互に与え合う影響を視野に入れつつ、京都都市圏の中核としての魅力と活力の維持・向上を図るとともに、京都独自の求心力を発揮し、京都ならではの魅力の発信を図ってまいります。</p>
<p>「目標とする都市の将来像」に関すること (p.5)</p>	<p>132</p>	
<p>【活力・賑わい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際競争力日本一、経済力日本一の京都市を目指し、若者に選ばれる質の高い魅力的な雇用を生み出し、唯一無二のまちとして成長することを願う。東京でもない、大阪でもない、圧倒的な京都を守ってほしい。 京都市が日本のみならず、世界に対して、研究開発や文化などの点で役割を果たし続けるべきである。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>産業・商業・業務・学術等様々な機能や資源の集積をいかし、長期的な視点を持って、市外の方々とも協力し合い、最新技術を取り入れることで、世界に類を見ない価値を新たに創造し続け、まち全体の活力を生み出してまいります。</p> <p>加えて、ものづくり産業の集積地や研究開発拠点等においては、産学公連携を促すことなどにより、国際競争力を高める環境整備を進めるとともに、各分野で多彩な才能を持つ人々を世界中から呼び込むことで、共創を通じた新たな文化や産業が生み出される「クリエイティブな都市」を目指してまいります。</p>

<p>【暮らし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都は歴史や文化だけでなく、「暮らしていて楽しい」「日常が豊か」と感じられる都市になることで、より持続可能で魅力的なまちになると思う。今後のまちづくりに、子育て世代や市民の日常目線をより反映してほしい。 ・ 京都市は地球温暖化対策に力を入れているため、このポイントをしっかり取り上げることが、京都市ならではの都市づくりを行っていくというスタンスを明確にできると思う。 ・ 脱炭素に対する記述が必要ではないか。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>市内で育った方はもちろん、進学等を機に市内へ転入してきた方、その後子育てを始めた方など、どのようなライフステージにあっても、暮らし続けることができ、移住先として選ばれるまちを目指します。</p> <p>また、京都ならではの地域コミュニティが受け継がれる身近な生活圏で「職住」のみならず多様な機能が融合した、暮らしや子育てなど日常を送ってみたいくなる生活空間の形成を図ってまいります。</p> <p>脱炭素社会の実現に向けては、都市計画分野においても自然環境との調和、資源やエネルギーの有効利用等の視点は重要であり、「都市計画に関する基本的な考え方」に記載します。</p>
<p>【文化・景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史ある文化をいかに守っていけるかが大切である。 ・ 京都の良さは文化・観光等もあるが、それだけではなく、山・川・緑等や学術をはじめ素晴らしいものがたくさんある。それらを大切にすることが必要である。 ・ 利便性や経済性だけでなく、「京都らしさ」を将来にわたり維持・継承する視点をより重視していただきたいと考える。全国どこにでもあるような風景へと変化しつつあることに危機感を覚える。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>長年継承されてきた建物や庭園、祭りなどの伝統行事、伝統芸能、慣習など人々の日々の営みと不可分である歴史や文化、暮らしの土台となっている豊かな自然や景観を、今後も大切に未来へ引き継いでまいります。</p> <p>また、歴史的な町並み景観の保全に加えて、京都らしい情緒を色濃く残す路地空間の保全・再生、人々の生活や生業から醸し出される文化的景観の保全・形成など、地域の活力や魅力を向上させる景観づくりを進めてまいります。</p>
<p>【安心・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的障壁の除去に留まらず、障害のある人を含むすべての人が暮らしやすい、ユニバーサルな街づくりを明確に掲げるべき。 ・ 防犯の視点が欠けているのではないか。子育て世代を中心に、事故や犯罪のない街には高い関心があるため、その点の記述をすべき。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>ユニバーサルデザインの理念に基づき、出自や生い立ち、年齢、性別、国籍、性自認や性的志向、宗教や信条、身体的・精神的特徴にかかわらず、誰もが暮らしやすい、安心で安全な都市を目指してまいります。</p> <p>地域コミュニティの絆は、平時の穏やかな暮らしの土台であり、地域の安全活動の取組につながると同時に、災害など有事の際にも人々の命を守る礎となります。地域活動が活発に展開される都市を目指すとともに、安心と愛着を抱きながら過ごせるまちづくりを進めてまいります。</p>

その他	12	
<ul style="list-style-type: none"> • 現代社会では、孤独・孤立、不登校、ひきこもり、精神的不調などが増えている。その背景には、人と人のつながりの希薄化や、自分自身とのつながりの喪失があるように感じている。子どもたちが未来に希望を持ち、大人たちもまた自分らしく生きることを諦めず、誰もが安心して深呼吸できるまち。これからの京都が単なる観光都市や経済都市ではなく、「人が自分自身に還ることのできる都市一心の都」として世界に新しい価値を示してほしい。 • 多文化共生が流行っているが、他文化強制にならないように気をつけてほしい。 • 首都機能を更に受け入れる体制を都市計画の観点から整備すべき。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>いただいた御意見は、関係部署とも共有の上、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p>

3 「第2章 テーマ別方針」について（428件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「活力・賑わい」に関すること（p.6）	112	
<p>【究める 世界に類を見ない価値を創造するまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都市内に本社や大企業の主要な拠点などの働く場をもっとつくってほしい。夫婦共働きで京都市内に住みたくても、夫婦ともに京都市内で就職するということが難しい。 若者が住み続けたくなる街と書いてあるが、そもそも市内に魅力のある働く場所が少ないから定着しないのでは。 世界に類を見ない価値を創造するまちとあるが、これこそが京都市の魅力であり、更に磨いてほしい。 無闇に商業施設やオフィスビルを増やすことが未来の発展につながるとは思えない。 大学を卒業した若者などに魅力的な雇用を京都市内に創出すべき。スタートアップ企業向けオフィスの整備を推進すべき。 都市計画道路の整備状況が遅く、目指すべき都市のためのインフラ整備が整っていないところが多々ある。 交通の利便性向上を最優先ですべき。移動性、利便性の低さが、京都の成長、ポテンシャルの活用を大幅に阻害しているように感じる。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>都心部においては、京都ならではの歴史的な町並みや多様な商業機能といった魅力をいかしながら、企業の本社やオフィス・ラボ等の集積を進めることで、そこで働く多彩な人々の交流を促し、新たな産業の創出を図ってまいります。</p> <p>また、ものづくり産業の集積地や研究開発拠点等においては、大学、世界的企業、中小・スタートアップ・ベンチャー企業によるオープンイノベーションや産学公連携を促すことなどにより、国際競争力を高める環境整備を進めてまいります。</p> <p>道路ネットワークは都市の骨格であり、物流や通勤、通学での利用にとどまらず、地域の賑わいにもつながる、大変重要なものです。そのため、持続可能なまちづくりに不可欠な効率的で効果的な道路ネットワーク形成を進めてまいります。</p>
<p>【魅せる 夢中と感動に溢れた人生とまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光や外部からの人の受け入れ拡大だけでなく、今この街で暮らしている市民、特に子育て世帯が安心して生活できる環境を最優先に考えてほしい。 観光については、「観光客向けの京都」だけでなく、「京都に住む人が行きたくなる京都」をもっと増やしてほしい。現在は観光地と地元の人が利用する場所が重なり、混雑が集中している印象がある。そのため、比較的人が少ないエリアにも魅力を分散させ、地域ごとの個性を活かしたまちづくりを進めてほしい。 京都市は、京都市少年合唱団や京都市交響楽団など優れた合唱団、楽団があり、音楽教育も熱心に取り組まれて来た地であることから、まちのなかで音楽に触れる機会が増えればと思う。ストリートピアノのようなものがあれば、まちの活性化につながるのではないか。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>市民生活との調和・両立の下、京都観光にかかわる全ての人々にとって質・満足度が高く、心や人生を豊かにするといった「観光の本質」を皆が享受できる、そして市民生活の豊かさの向上につながる持続可能な観光・M I C Eを目指してまいります。</p> <p>また、京都のまちなかにふさわしい魅力的な都市空間を創出し、快適に回遊できる歩いて楽しいまちの実現を図るとともに、商業機能だけではなく、美術館や劇場といった文化施設など、多様な機能を集積させることで、暮らす人、働く人、観光や買物に訪れた人など、世界中の様々な人々が、出会い、交流し、共創するまちを目指してまいります。</p>

「暮らし」に関すること (p. 6~7)	142	
<p>【住まう それぞれの望む暮らし方を実現できるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今、京都市の真ん中は、観光客か高齢者ばかりである。実際に生活をしていると如実に感じる。それは、若い人たちが住む家・マンションの賃貸・購入が非常に難しいからである。「若い人たちが京都市内に住める街づくり」を一番の、喫緊の課題として取り組んでほしい。 ・ 誰もが安心して暮らし続けられる「子育てや福祉に手厚いまちづくり」の実現を強く希望する。 ・ 用途規制が厳しすぎて生活に支障が出ているため、日常生活の核となる買い物をする場所が足りていない地域などの用途を緩和してほしい。 ・ 人が住むうえで、結構重要なポイントが買い物できる場所があるかどうかだと思う。スーパー等の出店場所については民間事業者の判断が大きいですが、住居系のエリアには、都市計画的に事業者に対してスーパーや商業施設の立地を誘導する方策も検討してほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>就職、結婚、子育てなどライフステージに応じた住まいを選択できるよう、交通便利性や自然環境、地域コミュニティとのつながりといった地域特性を踏まえた居住環境の創出を進めるとともに、既存住宅の適切な更新やリノベーションによる住宅供給を図ってまいります。</p> <p>また、住環境に配慮しながら、多彩な用途が適度に混在し必要な機能が身近にある、誰もが心地よく豊かに暮らし、過ごすことができるまちづくりを進めます。</p> <p>日常生活エリアでは、日々の暮らしに欠かせないスーパーや診療所、高齢者福祉施設、保育所といった毎日の暮らしを支える都市機能の充実と適切な配置を進め、生活利便施設が充足し、多世代が安心・快適に居住できる生活圏の形成を図ってまいります。</p>
<p>【繋ぐ・動く 健康で文化的な生活を営み続けられるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「暮らし」のテーマで、ウォーカブルなまちづくりや公共交通の利便性向上が掲げられている点は、子どもを連れての外出が多い子育て世代にとって非常に重要。 ・ 無人運転などの自動化技術を積極的に取り入れることが急務である。是非、固定観念にとらわれない自由な発想で、先端技術を活用してほしい。 ・ 交通インフラ（LRT）や自転車専用レーン、歩道の拡充は、目指して欲しい。 ・ LRTは是非とも実現してほしい。 ・ 2050年を目標とするなら、地球環境と共生する都市との記述の中に、カーボンニュートラルの内容がないのはあまりにも不自然ではないか。 ・ 「自立分散型エネルギーシステム」「エネルギーの面的利活用」「エリアマネジメント」といった方向性をあらかじめ示すことにより、仕組みとして都市の防災力向上を図ることが都市戦略としても有効ではないか。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>暮らしに不可欠な生活交通の維持・確保に加え、すべての人が快適・便利に利用できる公共交通の維持・向上を図ってまいります。</p> <p>また、公共交通の担い手不足の課題に対しては、自動運転やMaaS（Mobility as a Service）等の最先端技術を取り入れ、持続可能な都市を支える公共交通ネットワークづくりを進めてまいります。</p> <p>公共交通と徒歩や自転車、新たなパーソナルモビリティなど多様な移動手段をかしこく組み合わせた、快適に出かけるスマートなライフスタイルの定着など、安心・安全な移動をするための取組を進めてまいります。</p> <p>また、環境にやさしい新たな公共交通システムの検討をはじめとする公共交通網の充実と「クルマ中心」から「徒歩・公共交通中心」への転換を図ることなどにより、地球環境と共生する都市を目指してまいります。</p> <p>加えて、脱炭素社会の実現に向け、都市計画分野においても自然環境との調和、資源やエネルギーの有効利用等の視点は重要であり、記載を充実します。</p>

「文化・景観」に関すること (p. 7)	95	
<p>【守る 自然との不可分性・一体性を体感・体得できるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的町並み景観、歴史的建築物の保存・継承・活用の打出しが弱い。歴史的建築物をうまく活用し、将来に継承していくことを方針として打ち出してほしい。 ・ 京都市内の電柱をゼロにすることも是非やってほしい。 ・ 建物の高さ制限は維持されるべき。これ以上周りの山なみがとぎれないように。 ・ 住宅に関しては景観規制が厳しすぎる。補助金も出ないのに制限ばかりで思ったように建築できない。 ・ 山間部の生活の中で行われている農林業等によって、水田や山の保水力を保つことで、麓の都市部の洪水被害を防ぐといった作用もある。山間部にも人が引き続き住み、農林業が営まれることで結果として都市部を守ることにもなる。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>本市には、京町家をはじめとする歴史的建造物や庭園が点在し、風情ある町並み景観が形成されており、積極的にこれらの建造物の保全・再生・活用を図ってまいります。</p> <p>また、美しい景観の保全・再生など良好な景観形成に向けて無電柱化を推進してまいります。</p> <p>景観の保全と必要な都市機能の確保は、いずれも本市にとって非常に重要です。本市が今後も発展を続けられるよう、守るところは守り、伸ばすところは伸ばす、バランスに配慮したまちづくりを進めます。</p> <p>山間部においては、みどり豊かな自然環境の育成・保全を前提に、森林や農地の維持管理において重要な役割を果たしている地域住民の暮らしを支えるため、既存集落の住環境・生活環境の充実、産業の振興、定住人口の確保による、地域の生活・文化、コミュニティの維持・継承を図ってまいります。</p>
<p>【交ざる・憩う 世界中の人々から活動の拠点として選ばれるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都が文化都市として生きていくためには「ほんまもん」の芸術・文化を追求していくことが必要。それが観光資源や京都の産業・商売にもつながっていく。大学都市としての「ほんまもん」の学術都市を目指してほしい。 ・ 子どもが遊ぶ場所や設備やサービスが圧倒的に少ないと感じる。 ・ 図書館について、中央図書館はアクセスが悪い上、他都市と比べて非常に狭く貧弱。他の館も狭く、古く、アクセスがよくない場所が大半である。まずは使いやすい場所に、しっかりとした施設を作してほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>歴史や文化、学問や産業など、京都独自の特性をいかし、文化芸術とまちづくりの連携を図るとともに、世界中から集まった多様な人々が出会い、集い、交流することで、新たな魅力や価値を創造し、新旧の魅力が融合する都市を目指してまいります。</p> <p>日常に潤いをもたらす、健康や交流を育むなど、様々なニーズに対応する身近な公園や緑地、スポーツ・レクリエーションなどの施設の整備や多様な主体による柔軟な施設の運営を進めてまいります。</p> <p>また、学校や図書館、区役所なども含めた公共空間について、広く地域に開くよう取り組むとともに、都市開発の機会をとらえ魅力的な空間の創出を誘導してまいります。</p>

「安心・安全」に関すること (p.7)	53	
<p>【防ぐ・備える 危機に備え、対応し、立ち直ることができるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路の陥没事故や水道管の破裂が時折報道されている。特に道路の陥没は罪のない人たちが命を落とすこともあるので、ぜひとも早急な調査と対応をお願いしたい。 無電柱化の早期実現に期待する。 我が家の近くでも空き家が多く見られ、治安上の不安があるほか、今にも倒れそうな空き家は防災上の不安もある。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>老朽化した水道管や下水道管の更新を推進するなど、インフラの老朽化対策を着実に実施し、計画的で適切な維持、修繕を図ってまいります。</p> <p>災害発生時の電柱倒壊による被害発生や緊急車両の通行などの救援活動を妨げることがないように、無電柱化を推進してまいります。</p> <p>密集市街地などにおける防災まちづくり活動の支援などに加えて、空き家の発生の予防、活用・流通の促進、適正な管理の推進など、総合的な空き家対策を図ることにより、安心・安全なまちづくりを推進してまいります。</p>
<p>【支え合う 多彩なつながりで、安心と愛着を抱けるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災や防犯、地域の行事、見守りなど、地域に求められることは増えている一方で、仕事や子育てなどで忙しい世代も多く、これまでと同じ形で地域活動を支えるのは難しくなっているのではないかと。 地域主導のフードバンク活動などの福祉活動が生まれやすく、集まりやすい拠点（地域のコミュニティスペースなど）の整備を都市計画の側面からバックアップしてほしい。 ホテル、簡易宿泊施設などの乱立により地域住民はますます減少、町内会や自治体の活動もどんどん消えてゆき、安心安全への不安は増すばかりだ。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>住民自治の伝統を継承する地域コミュニティの絆は、平時の穏やかな暮らしの土台であると同時に、災害など有事の際にも人々の命を守る礎となります。この視点の下、地域との連携をこれからも大切にして、日頃から各地でコミュニティの醸成・維持等が図られ、地域活動が活発に展開される都市を目指してまいります。</p> <p>また、既存の用途制限により用途純化が進むことで、地域コミュニティ形成のために役立つ施設が不足している場所に、新たな出会いと交流の機会を生む場所づくりを進めることで、地域コミュニティの強化に寄与してまいります。</p> <p>住宅から小規模宿泊施設などへの転換が相次ぎ、地域内の調和が乱されるケースなど、地域コミュニティに影響を及ぼす課題に対しても、対策を検討してまいります。</p>
その他	26	
<ul style="list-style-type: none"> 京都市は、大都市に比べ迷惑喫煙が多いため早急に対応策を講じてほしい。 野良猫が糞尿している公園の砂場で遊ぶ子供たちを見るたびに、すごく胸が痛み、都市として行政として対策の必要性をすごく感じる。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>いただいた御意見は、関係部署とも共有の上、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p>

4 「第3章 エリア別指針」について（707件）

<全般>（202件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> これまでよりエリアの範囲を狭めて、「まち柄」に応じて設定するのは良いことだと思う。 エリアごとの地図に合わせた説明がリアルで分かりやすく、行政文書的な言い回しでなく、日常会話に近い文言を取り入れた説明が良いと思う。 地域ごとに、いろいろな魅力があり再発見できた。 ビジュアル的に全体のイメージが分かりやすくよかった。 エリア別指針に入っていないところには発展がない印象を受けてしまうので、それぞれの土地柄に応じた方針をもれなく記載してほしい。 まち柄も移ろうので、良い時期に見直しを考えてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	202	<p>個々のエリアの強み・役割を明確化し、エリア間相互のつながりも踏まえ、個々のまち柄に応じたまちづくりを行うため、市民・事業者にとってより身近な方針として各エリアの将来像を示しています。</p> <p>まち柄や将来像については、特徴的なエリアを選定して、代表例として記載しているものもあり、それらの内容については、記載のエリア以外においても該当する場合があります。</p> <p>また、エリア別指針に記載のないエリアのまちづくりについても、本プランで示す都市の将来像やテーマ別の方針などを踏まえながら、記載のあるエリア同様に着実に進めてまいります。</p> <p>将来像については、現在のまちの状況を踏まえお示ししたものであり、今後社会経済動向の変化等があれば、それに適宜見直しを図ってまいります。</p>

<北部方面>（144件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
<p>「若者が愛着を持ち、挑戦し続けられるまち」に関すること（p.10～11）</p> <ul style="list-style-type: none"> 出町柳駅～吉田山エリアに住んでおり、出町柳周辺が再開発されることは喜ばしい。学生が沢山住んでいる街なので、学生が住みやすい美しい街並みになることを期待する。 吉田周辺は、京都大学の知があるので、単なるスタートアップではなくディープテックに強みがある。その点も具体的に書くべきではないか。 出町柳駅周辺において、スタートアップ・ベンチャー企業の立地の需要は見込めないと思う。 一乗寺エリアの範囲が四方に広すぎると思う。特性の違う地域に跨がっていて、計画が機能するか疑問である。 <p style="text-align: right;">など</p>	38	<p>数多くの大学が立地し学生が多く居住する地域であることや、大学発のスタートアップ・ベンチャー企業が増加しているというまち柄をいかし、周辺の住環境との調和の下、大学入学を機に転入した若者が地域に愛着を持ち、新たな挑戦をし続けられるまちづくりを進めてまいります。</p> <p>出町柳駅～吉田山エリアにおいては、住環境との調和の下、駅を中心に更なる賑わいの広がりや都市機能の集積を図るとともに、地の利をいかして附属病院を含め大学と緊密に連携するスタートアップ・ベンチャー企業の立地を促進してまいります。</p> <p>一乗寺エリアについては、記載しているような、若者が活動しているまち柄がより色濃く表れているエリアが範囲となるよう、明示いたします。</p>

<p>「文化芸術・MICE・学術が多様な交流をうむまち」に関すること (p. 11)</p>	<p>54</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際会館はあるだけで地元に対して何かしてくれるわけでもない。住んでいる人の目線に立った分析をしてほしい。 ・ 北山エリアは府立施設が多く、引き続き府市一体による都市計画を推進すべき。 ・ 京都工芸繊維大学を含む松ヶ崎地域については、北山エリアに組み込まれるべきではないか。 ・ 京都府の北山エリアの事業は、京都府の所有地の中だけすべき。周辺住宅に良い影響を受けるのは良いが、周りは静かにしてほしいと思っている。疑念を生むので、エリアの表示で周りの街を巻き込まないでほしい。 ・ 岡崎エリアは、近年の取組により賑わいが生み出されているが、MICEの誘致など、まだまだポテンシャルがある。 ・ 岡崎エリアは、様々な文化施設がある。メリハリなくあちこちで同じような賑わいを求めないで、地域の特性を知ってほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>文化芸術・MICE・学術関連等、多彩な施設が立地し、多くの人々が訪れるエリアです。良好な住環境や豊かな緑と調和した魅力的な機能を一層充実させ、更なる賑わいや多様な交流をうむまちづくりを進めてまいります。</p> <p>北山エリアについては、都市計画マスタープランの一部である地域まちづくり構想「北山文化・交流拠点地区」を対象範囲としており、周辺とも連動しながら、文化芸術と学術の香りが漂う、品のある華やぎと賑わいが人々を惹きつけるまちづくりを進めてまいります。</p>

<p>「歴史・文化、匠の知恵や技をいかした創造と革新のまち」に関すること (p. 12)</p>	13	
<ul style="list-style-type: none"> • 西陣の町並みを大切にしてほしい。この辺りはたくさん町家がある。 • 京都市上京区の京都府警北野待機宿舎跡地が「国立文化財修理センター」の正式な候補地とされることが発表されたことから、北野天満宮周辺について、歴史的な経過や受け継がれてきた文化・営みを踏まえ、地域の活性化にも資する文化ゾーンとして、まちの更なる活性化につながる方向性等を検討してほしい。 • 北野白梅町駅周辺において、自然発生的に小さな事務所が立地することはわかるが、行政がこのエリアにオフィスの立地を促進するのは違和感がある。 • 京都御苑周辺を中心とする上京区は、世界に誇る品格の高いエリアとして価値を高めてほしい。 • 原谷エリアは、伝統産業の工房や桜の名所など、特定の目的や季節がなければ訪問する機会が少ないが、新たな価値の創出や地域活性化に向けた取組が進められているのであれば、具体的な方向性を教えてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>長い歴史の中で地域に根付いた伝統産業の長期的な低迷が続く中、それを生業にする方々が様々な工夫を講じながら課題に立ち向かっており、近年では京町家や路地などのまちの魅力をいかしながら、新たな「クラフト(手仕事)」が多彩にうまれつつあるエリアです。伝統と革新それぞれの知恵や技術が磨き上げられ、あるいは時に互いに交わることで、京都ならではの逸品や価値が絶えず生み出され続けるまちづくりを進めてまいります。</p> <p>西陣エリアについては、国立文化財修理センター(仮称)が整備されることも踏まえ、更なるまちの魅力・活力の向上を目指してまいります。</p>
<p>「地域の賑わいの中心となるまち」に関すること (p. 13)</p>	10	
<ul style="list-style-type: none"> • 北大路駅周辺について、既存の商店街の活性化くらいなら分かるが、新たな商業施設の立地を企てているのか。どこにどう配置するつもりか。 • 楽只～北大路通エリアは、京都市北部をけん引する拠点となり得るエリアである。観光地や学生の多いまちのポテンシャルを活かし、佛教大学などと連携しながら、北区の中心として活力のあるエリアになってほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>本市北部の交通の要衝であるとともに、歴史ある数々の寺社や大学、商店街、商業施設もあり多様な人々が往来しているエリアです。本市北部の交通結節点として多くの利用者が行き交う北大路駅周辺と市営住宅の団地再生事業によりうまれる将来活用地等のポテンシャルをいかし、地域の賑わいの中心となるまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>「山あいの豊かな自然の中、独自の伝統文化が受け継がれるまち」に関すること (p. 13)</p>	29	
<ul style="list-style-type: none"> • 『山あいの豊かな自然』などという綺麗な言葉で誤魔化さず、コミュニティや生活の維持を目指してほしい。 • 林業や農業の後継者を大至急育てて、地域の産業と共に定住できるようにしなければ豊かな自然は守れない。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>素朴な美しさをたたえた自然と人の営みとが調和したエリアである一方で、地域コミュニティの衰退や日常生活などに必要な交通手段の確保が課題となっています。多様な地域特有の暮らしを継承するとともに、豊かな自然や森林資源をいかし、持続可能で、人々が交流を深めるまちを目指してまいります。</p>

<都心部方面> (131件)

皆様の主な御意見 (要旨)	件数	御意見に対する本市の考え方
「京都ならではの都心空間を体現するまち」に関すること (p.14)	17	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的都心地区周辺は、日本、関西、京都の経済をけん引するエリアであり、更なる成長を期待する。 ・ 歴史的都心地区について、伝統+居住という方針になっているが、京都随一のオフィスやイノベーション、京都最大の商店街、現代的高感度な物販飲食、若者カルチャーなどのメッカでもあり、そういった都心的要素の観点が抜けているのでは。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>多くの企業や商業施設、宿泊施設等が立地するとともに、受け継がれてきた歴史・文化や京町家などの貴重なストックを守り、いかなしながら、活発な交流が活力をうむまちとして、複合的な機能が重なり合う京都ならではの都心空間を目指してまいります。</p>
「京都の玄関口として都市活力をけん引するまち」に関すること (p.15)	68	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都駅周辺にはぜひ高層ビルをはじめとする再開発、活性化計画を進めてほしい。メリハリをきかせることは京都でも有効だと思う。 ・ 玄関口として、オフィス面積の不足や駅前の混雑が課題としてあげられているが、北側は三山、盆地景や本願寺を感じる入口として容積・高さを上げるべきでなく、南側の開発を促すべき。 ・ 京都駅前にこれ以上高い建物はほしくない。山並みが見えなくなる。京都のまちの特徴をなくさないでほしい。 ・ 京都駅前に高いビルを建てて誰が喜ぶのか。歴史都市としての体裁も風情も台無しになる。 ・ 「ウォークブルで豊かな公共空間」の整備はとても重要だと思う。観光客だけでなく、京都市民がゆったりと過ごせるような場所ができるといいと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>国際文化観光都市である京都市にとって、京都駅は、市民はもちろん、国内外から訪れる人の多くが利用する、文字どおり代表的な「玄関口」である一方で、駅前にオフィス空間が不足していたり、歩行空間が狭いので人が滞留・往来できる空間が少ないなどの課題があります。とりわけ駅に近接する場所においては、国内外問わず都市間競争が激化する中で、国際競争力を持つ京都経済のけん引役となるオフィス・ラボ、賑わいの核となる商業施設、さらにはそうしたコア的な役割を担う施設と連携する拠点などの都市機能の高度集積を進めるとともに、ウォークブルで豊かな公共空間やストリートが多様な交流をうむ駅前空間を創出してまいります。</p>
「都心西部の拠点として多様な機能が集まる活気あるまち」に関すること (p.15)	11	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 二条駅周辺について、JRや地下鉄が通り交通利便性が非常に高い魅力をいかし、四条大宮エリアと連動しながら、京都市をけん引するエリアに成長してほしい。 ・ 二条駅のサブゲート化は京都駅一極集中の交通ネットワークを分散化することが重要。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>鉄道やバスなど高い交通利便性や地域特性をいかし、二条駅周辺、四条大宮周辺の両エリアの連携を図りながら、西部方面へ活気を導く拠点として、多様な機能を集積させ、更なる魅力の創出を目指してまいります。</p> <p>二条駅周辺については、都心西部にある主要なサブゲートとなるよう、将来的な駅前広場の再編も視野に都市基盤整備を進め、駅周辺の魅力を更に向上させてまいります。</p>

<p>「京都固有の歴史や暮らしの文化と賑わいが調和するまち」に関すること (p. 16)</p>	<p>22</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 丸太町駅周辺について、文化庁が移転整備され、官公庁エリアとしての格が高まったことを記載するとともに、更なる首都機能受け入れ体制の拠点とするまちづくりを進めてほしい。 ・ 京都駅一極集中を副都心エリアの二条や山科、三条に分散すべき。 ・ 東山エリアについて、早急に手を打つべきだと思う。本当に簡易宿所とレンタル着物屋ばかりになっている。このままでは本当に人がいなくなるか、いても地域と全く関係のない根無し草のような人たちだけのエリアになってしまう。 ・ 「住環境が周辺に行き過ぎた賑わいにおびやかされているエリアもあります」とあるが、他にもそういったエリアがあることは良く認識すべき。 ・ 特定の区域の簡易宿所(民泊)について、運営を厳しくする条例を制定してはどうか。例えば、簡易宿所の宿泊税を上げる、民泊の年間営業日数の上限を下げる、管理人の滞在義務を厳しくする等。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>鉄道駅周辺の交通の便が良いエリアであり、特徴あるまちの歴史を刻みつつ、多くの来訪者を迎えているエリアです。京都らしい暮らしを守りながら、多様な人が働き、交流するまちづくりを進めてまいります。</p> <p>丸太町駅周辺については、文化庁、裁判所、府庁などから成る京都の官庁街としての風格のある拠点を形成してまいります。</p> <p>三条駅周辺については、サブゲートとしての更なる発展も期待される中、多様な機能が集積した賑わいと活力あふれる拠点の形成を目指してまいります。</p> <p>住宅から小規模宿泊施設への転換が相次ぎ、地域内の調和が乱されるケースなど、地域コミュニティに影響を及ぼす課題に対しては、東山エリアのみならず市内全域において、対策を検討してまいります。</p>

「アートや伝統・先端産業などが融合したクリエイティブなまち」に関すること (p. 17)	13	
<ul style="list-style-type: none"> • 七条駅周辺は、京都駅からも徒歩圏内のエリアなので、京都駅からの連続性を考慮したまちづくりが進んでほしい。 • (五条坂～東福寺駅エリア等について) 商店は街の要であり、複数の商店があると街に賑わいが生まれ、地域が活性化するため、商店街を復活させてほしい。 • 梅小路エリアについて、エリアの新たな動きのすべてがリサーチパークで起きているような記述になっているが、エリア内の既存建物を活用したモノづくり、アート、食をテーマにした様々な動きこそ注目して応援、育成すべき。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>伝統産業や先端産業に携わる人々、またアートを志す学生などの多彩な技術、知恵、思いのクロスオーバーが、まちに更なる活力をもたらす可能性があるエリアです。文化芸術都市の取組や伝統産業などをいかした新たなイノベーション拠点の創出を目指してまいります。</p> <p>七条駅周辺については、京都駅との近接性もいかしながら、多様な主体による取組の連動により、文化芸術都市・京都の新たなシンボルゾーンとして更なる魅力向上を目指してまいります。</p> <p>五条坂～東福寺駅エリアについては、京都駅から近い利便性の高さや近隣の文化芸術に関する取組、この地に受け継がれる伝統産業等をいかし、新たなチャレンジを志す人を後押しするなど、住環境や地域コミュニティを大切にしながら、新たな魅力の創出を目指してまいります。</p> <p>梅小路エリアについては、京都リサーチパークを含む周辺の多様な人々の連携によって、「クリエイティブ・タウン」実現に向けたまちづくり活動が活発に行われています。特色ある既存ストックの有効活用とあわせて、クリエイティブな人材が集うこの地の特性をいかしたまちづくりを後押ししてまいります。</p>

<東部方面> (51件)

皆様の主な御意見 (要旨)	件数	御意見に対する本市の考え方
「京都の東の玄関口として多くの人が集う魅力あるまち」に関すること (p. 18)	17	
<ul style="list-style-type: none"> • アクセスは抜群で、更なる成長が見込めるポテンシャルの高いエリアである。地価やアクセスの良さから見ても、特に子育てしやすいエリアとして、子育て世代が喜ぶ施設等の誘導を推進してほしい。 • 山科駅周辺は数年後にはるかの終着駅となり、京都の玄関口としての機能を果たすと思う。 • 特急「はるか」の山科駅延伸に反対する。またそれに合わせて宿泊業者を呼び込むことに反対する。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>地下鉄・JR・京阪の各駅が所在し、東西と南北いずれにも幹線道路が走る、まさに京都の東の玄関口であり、今後の関西国際空港からの特急「はるか」延伸、機能を充実させた図書館や市内東部地域初となる大型の子どもの屋内遊び場の整備などによって更に発展が期待できるエリアです。このような今後更に多くの人を訪れるエリアとなるポテンシャルをいかし、宿泊機能をはじめ、サブゲートにふさわしい駅前空間の創出や商業・業務機能の集積などを進めることが、更なる魅力向上につながると考えております。</p>

<p>「賑わいあふれる歩きたくなるまち」に関すること (p. 19)</p>	<p>10</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少し前に外環状線沿いで規制が緩和されたが、範囲が狭すぎると思う。山科を景観政策という縛りから解放すれば、ベッドタウンを超え中核市レベルに発展を遂げる未来も、十分にあり得ると思う。 ・ 外環状線沿いの建物高度規制が撤廃され景観に悪影響がでている。元の高度制限に戻すべき。 ・ 新十条通沿道は、買物施設も並んでおり、地域の商店街的雰囲気もあるのでは。 など 		<p>幹線道路沿いには商業施設等が集中し、大規模なマンションの立地が進んでいるエリアです。更なる魅力の創出や活力の向上に資する多様な都市機能を集積するとともに、安心・快適で歩きたくなるような賑わいと潤いある都市空間を形成してまいります。</p> <p>外環状線沿道については、地下鉄駅周辺で展開される新たな魅力づくりとも連動しながら、若年・子育て世帯のニーズに合った居住環境を創出するとともに、広場空間や店舗を誘導するなどにより、まちの賑わいや歩きたくなる空間を生み出し、人と人のつながりを促すまちづくりを進めてまいります。</p> <p>新十条通沿道については、外環状線との交差点付近に多様な施設が立地しており、幹線沿道を中心に、更なる新たな魅力と活力の創出に資する多様な都市機能の集積を図ってまいります。</p>
<p>「多様な住まいのニーズを受け止めるまち」に関すること (p. 20)</p>	<p>3</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広に若年・子育て世帯の住まいニーズを受け止めることのできるまちを目指すとして書いているが、現在このエリアに高齢世帯が多いことや、公共交通機関が貧相なことを踏まえ、どのような流れで若い世帯に来てもらう道筋を立てているのか。自動車の利用を前提としているということか。 など 		<p>駅から少し離れているところもありますが、三条通、外環状線や国道1号、名神高速道路など主要な道路に近いエリアであり、とりわけ、小さな子どもを伴う世帯層など、日用品の買い出しや行楽等に自動車の利用を求める若年・子育て世帯の住まいのニーズを受け止めることのできるまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>「大規模な住宅団地を活用した新たな魅力を発信するまち」に関すること (p. 20)</p>	<p>4</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他エリアではなく醍醐駅～石田駅エリアで芸術家支援を展開する理由や、この取組が将来的にどのような地域づくりにつながることを目指しているのかについても、説明してほしい。 など 		<p>大規模な住宅団地が立ち並ぶエリアであり、既存施設を適切に維持・活用し、若者から高齢者まであらゆる世代にとって魅力的な居住環境の充実を図るとともに、新たな魅力の発信や創出など、若年・子育て世帯の呼び込みにつながる取組を進めてまいります。</p> <p>醍醐駅～石田駅エリアについては、既存公的ストックを有効に活用しながら、新たな住まいと賑わいを創出し、周辺エリア一帯の魅力向上を図ってまいります。</p>

<p>「地域の人が集い、学び、交流する拠点となるまち」に関すること (p. 21)</p>	<p>17</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 醍醐駅周辺に広がる広大な市営住宅地は、現状のまま維持するよりも、駅に隣接した土地を民間に売却・開放し、高度利用を促す方が、市の財政および地域の活性化にとって合理的であると思う。 ・ 東部クリーンセンター跡地はこのエリアの雰囲気を変える起爆剤になると思うので、魅力的な開発をしてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>公共施設や商業施設など多くの人々が利用できる施設が所在しているエリアです。各公共空間の魅力向上・活性化を図り、それらをいかして子どもから大人まで地域の人が集い、学び、交流する拠点を創出するとともに、バス・地下鉄が連携した便利な交通ネットワークの実現に向けた取組を進め、周辺の居住環境の向上を図ってまいります。</p> <p>醍醐駅周辺については、駅周辺の公共空間を多世代が居心地よく過ごせる場所にするなどにより、居住環境の魅力向上を図ります。</p> <p>東部クリーンセンター跡地では、コミュニティスペースや子どもの居場所・遊び場などを備えた複合図書館、大規模な緑地などを一体的に整備すること等を検討しています。子どもや大人が集い、つながり、笑顔で満たされる場を創出してエリアの魅力を高め、それを周辺へと波及させてまいります。</p>

<南部方面> (63件)

皆様の主な御意見 (要旨)	件数	御意見に対する本市の考え方
「産業の集積地として京都の活力をうむまち」に関すること (p.22~23)	29	
<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと京都駅南側の開発を進め、住宅地をオフィスにすべき。 ・ らくなん進都内の義務緑化率を低減し、地区内の企業の設備投資、企業立地の促進を図るべき。 ・ らくなん進都は、既に都市基盤が十分整ったなかで次の企業誘致が全く進んでいないことを認識し、原因を突き止めたうえで必要な施策を展開すべき。 ・ 京阪電車中書島駅を起点に西へ電車網(路面電車)を走らせることで陸の孤島といわれている羽東師地域を活気づかせることができるのでは。 ・ 横大路エリアについて、伏見ルネッサンスプランとの連携はないのか。 ・ 南部に市街化調整区域は必要なのか。もっと産業や住宅地として活用してはどうか。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>オフィス・ラボ、商業、ものづくり、物流など、様々な経済活動の場が集積し、京都のまちの活力の源となっているエリアです。地域特性に応じた産業が集積し、それぞれの強みを伸ばすまちづくりを推進してまいります。</p> <p>京都駅南部エリアについては、京都駅やらくなん進都との近接性をいかし、イノベーションがうまれるオフィス・ラボを集積するとともに、クリエイティブな活動の場となり、京都の南部創造をリードするまちづくりを進めてまいります。</p> <p>久我・羽東師西部エリアについては、周辺の環境と調和しつつ、将来の都市計画道路の整備も見据え、企業の操業環境の向上を図り、エリアの中に市内で唯一工業専用地域があるという地の利をいかし、更なる産業集積を進めてまいります。</p> <p>横大路エリアについては、「伏見ルネッサンスプラン」の策定を受けて、都市計画マスタープランの一部である地域まちづくり構想「横大路地域」に位置付けております。</p> <p>らくなん進都については、本市の最も重要な産業集積拠点として、また、新しい京都を発信するものづくり拠点として、魅力的な都市環境を生み出し、国内外の最先端のものづくり産業をはじめとする企業の進出意欲を高め、本社オフィスや生産、研究開発、流通機能などの充実を目指してまいります。</p> <p>南部の市街化調整区域については、無秩序な開発を防止するとともに、高速道路のインターチェンジに近接するなど、交通利便性が高い場所において、農地などの周辺環境との調和を図りつつ、産業用地の創出を進めてまいります。</p>

<p>「地域の発展を支える活気あふれるまち」に関すること (p. 24～25)</p>	23	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹田駅周辺に賑わいがあるかという、駅の東西ともに人が滞在できるスポットや立ち寄りのお店もなく、寂れている感が否めない。駅から少し離れた場所には元々魅力的なスポットもたくさんあるので、駅周辺がもっと賑わいと活力を感じられるような環境になると、より魅力的な街になると思う。 ・ 中書島駅周辺を丹波橋・伏見桃山・桃山御陵前駅周辺と連動した観光地として整備できないか。 ・ 中書島駅は京阪本線の特急停車駅であるにも関わらず、駅周辺のポテンシャルをうまくいかしきれていないエリアだと特に感じるので、京阪電鉄と協調のもと、「商業・業務機能の充実などによって駅周辺の魅力向上」を是非図ってもらいたい。 ・ JRAの協力を得ながら淀駅周辺の発展に期待したい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>古い時代から成り立ってきたまちがあり、これからも発展が望まれるエリアや、これからの開発事業等の展開によって活気がうまれる場となることが期待されるエリアです。長年受け継がれてきた地域資源や今後新たに創出される魅力的な拠点のポテンシャルをいかし、南部地域全体を更に活気づけるまちづくりを進めてまいります。</p> <p>竹田駅周辺については、南部創造の新たな拠点として商業・業務機能などを集積し、利便性の高い良質な居住環境が充実した賑わいと活力に満ちたまちを形成します。</p> <p>丹波橋・伏見桃山・桃山御陵前駅周辺については、歴史ある市街地の多様な地域資源、団地再生事業によりうまれる将来活用用地等をいかし、住環境とも調和しながら、商業・業務機能の立地を進めるなど、更なる賑わいの創出を図ってまいります。</p> <p>中書島駅周辺については、大阪方面にも出やすい京阪の特急停車駅でもある交通アクセス性の高さや、数々の観光名所からも近いことなどのポテンシャルを更にいかすため、商業・業務機能の充実などによって駅周辺の魅力向上を図ってまいります。</p> <p>淀駅周辺については、競馬場をはじめとする娯楽・レクリエーション機能、大阪方面への交通利便性をいかし、商業機能を充実させ、住環境とも調和しながら、新たな形のオフィスの立地を進めるなど、更なる活気あふれるまちを目指します。</p>
<p>「誰もがいきいきと暮らせる、多文化・多世代共生のまち」に関すること (p. 26)</p>	8	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常に多くの高層市営住宅があるものの、今後の人口減少社会においてはこれらの維持・活用を考えることは非常に重要。狭いエリアに生活利便施設が多くあるので、多様な都市機能の誘導を是非図ってもらいたい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>多様な生活利便施設が立地するとともに、交通利便性も高い住宅街です。公営住宅などの既存施設を適切に維持・活用するとともに、多様な都市機能の誘導を図ることで持続可能な多文化・多世代共生のまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>「働くと暮らすを豊かに楽しむ住みよいまち」に関すること (p. 26)</p>	3	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 久我・羽束師東部エリアには、最寄りの鉄道駅はなく、日常生活に必要な物資を買いおうにも、自家用車が無ければ歩くしかない地域である。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>鉄道駅から離れてはいますが、らくなん進都など、今後更なる産業集積が期待される「働く場」と近接した住宅エリアです。小さな子どもを伴う世帯層など、日用品の買い出しや行楽等に自動車の利用を求める若年・子育て世帯の住まいのニーズを受け止めることができるまちづくりを進めてまいります。</p>

<西部方面> (116件)

皆様の主な御意見 (要旨)	件数	御意見に対する本市の考え方
「住む人、訪れる人が共に過ごしやすい回遊性のあるまち」に関すること (p. 28)	17	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 閑静な住宅街が広がる一方で食品や日用品等の購入のための店舗が少ないという現状は正しいと思う。一方で、店ができるだけではこの地域において、過ごしやすい街、安心安全な街にはならないと思う。 ・ 国内外から多くの観光客が訪れる京都を代表する観光地だが、その一方で住環境の整備よりも観光地としての整備が優先されているように感じる。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>国内外の観光客で大いに賑わうスポットもあれば、落ち着いた住宅街が広がる場所もあるなど、異なる顔を持つエリアであり、渡月橋の北側においては来訪者の集中、南側においては住環境とのバランスの取れた賑わいの創出がそれぞれ課題です。住環境と調和しながら、回遊性を高めエリア一帯の賑わいの分散を図ることなどにより、住む人、訪れる人の双方にとって満足度の高いまちづくりを進めてまいります。</p>
「ものづくりと調和し、生活利便が整った住みよいまち」に関すること (p. 28)	4	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西院駅周辺は、京都で数少ない若者のカルチャー・遊びのスポットを目指してほしい。 ・ 西院エリアについて、高さ規制を守ってほしい。 ・ 西大路駅周辺は、大企業の産業集積にもっと光を当ててほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>ものづくりに関係する企業のオフィスや生産拠点などが多いエリアですが、最近ではマンションの立地事例も多くなっているエリアです。生産拠点の操業環境の保全・向上と併せて、未来を支える若い世代の市内居住のニーズを受け止め、ものづくりと調和した、生活利便が整った居住環境の創出と、環境負荷にも配慮した職住近接のサステイナブルなまちを目指します。</p>
「多様な働き方とゆとりある子育てを実現できるまち」に関すること (p. 29)	51	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 桂駅周辺、桂川・洛西口周辺、洛西バスターミナル周辺について、計画のとおり、若年・子育て世帯を引き付ける魅力的な居住環境の創出を進めてほしい。 ・ 桂駅周辺では「ゆとりある住環境と調和」とあるが、東側で特にゆとりある空間づくりを目指してもらいたい。 ・ 洛西SAIKOプロジェクトでは、洛西地域に新たな住民や機能呼び込むとされている。この点を都市計画の観点から強気にバックアップするべきではないか。 ・ 洛西地域での自動運転バス実証実験に強く賛同し、早期の社会実装に強く期待する。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>高度経済成長期以降に急速に市街化が進んだ、市内でも比較的新しく形成されたまちが多いエリアです。整った都市基盤や交通利便性をいかし、市内のみならず他都市で働く若年・子育て世帯を惹きつける魅力的な居住環境を創出してまいります。</p> <p>洛西バスターミナル周辺については、洛西“SAIKO”プロジェクトにおける取組等と連携しながら、ニュータウン全体の再生を進めてまいります。</p>

<p>「学生や働く人など多様な人が行き交い、集うまち」に関すること (p. 30)</p>	9	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 円町駅周辺について、「更なる賑わいの創出を目指す」とあるが、その賑わいが子育て世帯にとっても居心地のよいものになるよう、ファミリーフレンドリーな飲食・カフェ施設の誘致を方針に盛り込んでほしい。 ・ 太秦天神川駅周辺について、駅北側で現在解体中の工場の跡地を右京区の防災拠点としてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>駅又は主要なバス路線がある交通結節点周辺として、近隣住民、学生、事業関係者など多様な人々が往来しており、それぞれの人の利便性向上に寄与する各種施設も立地しているエリアです。高い交通利便性をいかし、周辺の人々を惹きつける多様な都市機能を集積し、更なる賑わいを創出してまいります。</p>
<p>「豊かな地域資源と暮らしやすさが共存するまち」に関すること (p. 30)</p>	7	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 梅津、太秦天神川駅周辺エリアは、スーパー、ドラッグストア、バス、電車もあり利便性も良い環境だと思うが、子どもが楽しく低料金で日常的にも利用しやすい場所があればよいと思う。 ・ 「スプロール市街地が形成されており、道路が狭く狭小な敷地が多いなどの課題がある」としているが、スプロール市街地と認定されるなら、少しでも改善されるような計画を策定して欲しい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>長い歴史を有する古社等がたたずみ、静かな住宅地が広がるエリアです。また四条通周辺においては、企業の製造拠点等が集積しており、多くの人々が働いています。一方で、いわゆるスプロール市街地が形成されており、道路が狭く狭小な敷地が多いなどの課題があります。コンパクトサイズであっても一戸建てを求めたい、市内で働く若年・子育て世帯などが暮らしやすいまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>「スポーツ・医療・健康科学などが融合したウェルビーイングなまち」に関すること (p. 31)</p>	3	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西京極総合運動公園の機能を高め、賑わいを生むことが最も重要。プロ野球の試合の誘致やアリーナ等の開発をすべき。 ・ 西京極駅周辺は公園、大学と特徴は多いのに、まちづくりの方針が「魅力的なまち」と曖昧。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>スポーツ、医療、健康科学などに関係する施設、企業等が所在するエリアです。これらの施設等と地域の人々が相互に関わり合うことで、心豊かな社会が実現したウェルビーイングなまちづくりを目指してまいります。</p> <p>西京極駅周辺については、スポーツと関わりが深い方だけでなく、多様な世代、多彩な人たちに十分に活用され、健康的で活発な交流を促進する公園を核とした魅力的なまちづくりを進めてまいります。</p> <p>五条通周辺については、周辺の大学等との連携も視野に入れながら、関連する分野のオフィス・ラボの軸の形成を目指してまいります。</p>

「新しい産業が生まれ、成長するまち」に関すること (p. 31)	5	
<ul style="list-style-type: none"> • 桂駅～桂イノベーションパークエリアは、学研都市である「つくば」のようなまちになる可能性を秘めていると思う。 など 		<p>未来に向けた様々な研究や事業が展開されているエリアである一方、スタートアップ・ベンチャー企業が入居する公的インキュベーション施設は高い入居率で推移しており、更なる活動の場が求められているエリアです。今後ますます高まることが期待されるスタートアップ・ベンチャー企業のニーズを受け止め、桂イノベーションパーク周辺において、働きやすい都市環境の向上を図るとともに、この地で生まれた先端産業を更に発展させるため、桂駅までの幹線道路を中心にオフィスの立地を促進してまいります。</p>
「地域特性をいかした産業を軸に、愛着を持って住み続けられるまち」に関すること (p. 31)	20	
<ul style="list-style-type: none"> • 他都市からのアクセスの良さが利点としてあるので、市内だけでない利用を踏まえた計画を立てると良いのではないかと。 • 京都市の観光客分散化に一役買える地域であると思っている。しかし、この地域の産業振興や既存集落の住環境、生活環境の充実を目指すには道路整備が必要であり、南北に通ずる基幹道路、都市計画道路沓掛上羽線（第二工区）の早期建設を強く望む。 など 		<p>市内でも農業の盛んなエリアで、四季折々の特産品があります。都市部からほど近い一方で豊かな自然と農ある暮らしがある「トカイナカ」としての魅力を大切に、既存集落の住環境や生活環境を更に充実させ、良好な交通アクセス等地理的特性をいかした産業などの振興により、定住・移住を促進し、市域全体の潤いと豊かさにつなげてまいります。</p> <p>沓掛上羽線については、令和7年度に行われた都市計画道路網の見直しにおいて、廃止候補としています。現在整備中の中山石見線の完成後の交通状況等を見定めるため、廃止手続を保留しております。</p>

5 「第4章 実現方策」について（78件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
「戦略的な都市づくりの進め方」に関すること（p. 32）	66	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民・事業者・行政がそれぞれ合理的に利益を得られる「win-win」の関係を構築し、協力した者が適切に報われる仕組みを設計することが不可欠。 ・ 京都を良くしたいと考える市民が、継続的に意見を述べ、計画に関与できる仕組みが重要である。 ・ 行政だけの財力では限界がある。民間資力や国からの補助を積極的に取り入れていくことも必要。 ・ 行政が細かく管理できる時代ではないと思う。市民が自由にできるよう、極力細かいルールを作るのはやめてほしい。 ・ 厳しい財政状況などから、民間の投資を呼び込む規制緩和やインセンティブ付与などの都市計画上の工夫を強く求める。 ・ 「都市計画の柔軟な見直しと活用」は、具体的にどのように活用していくのかがかなり抽象的に書かれており、これを根拠に施策見直しを図る上で位置付けが弱いと映る。 ・ 小学校跡地は民間に貸してお金にするべき。 ・ 図書館や子どもの遊び場など、魅力的な公共空間の創出を積極的に進め、市内への移住促進につなげてほしい。 ・ 公共施設の再編や跡地活用を進めることは重要だが、その前提として、市有地の維持管理体制をどのように確保していくのかも重要な課題である。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>本プランに掲げる将来像の実現に向けては、まず、京都の特性の一つである、地域コミュニティを単位としたまちづくりへの支援をはじめ、各地域の自主的なまちづくりが継続的に展開されるよう、仕組みづくりを推進し、市民・事業者・行政の協働によるまちづくりを進めてまいります。</p> <p>また、都市づくりの実現性を高めるために、土地利用の動向や都市施設の整備状況、社会経済動向の変化等を踏まえて、必要性や実現性、効率性を十分に検討の上、適時適切に都市計画手法等の活用を図ってまいります。</p> <p>大規模な活用可能地や低未利用地については、京都の活力の維持・向上を進める上で貴重な財産として、計画的・戦略的な土地利用を進めてまいります。</p> <p>学校や図書館、区役所、公園や広場といった公共空間は、広く地域にひらくよう取り組むとともに、その地域の特性に応じて、地域のまちづくりに大いに寄与する魅力的なものとなるよう積極的に活用を図ってまいります。</p> <p>公共施設については、社会構造の変化等を踏まえて施設の持続可能性を検討し、時代に合った都市機能の見直しを進めつつ、まちの活性化や地域の需要等を踏まえたより戦略的な活用を重視した取組を推進します。また、老朽化対策を着実に実施し、安全性や機能性の維持・向上を図るため、施設ごとの改修計画の策定・更新を進めてまいります。</p>
「地域まちづくり構想」に関すること（p. 32）	4	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域発意の将来像を積極的に支援していくことは良いと思う。 ・ 地域まちづくり構想は重要なものだが、現実には地域や担い手の高齢化、地域で対応できない観光や外国資本流入等のグローバル事象への対応、予算的な制約など、策定プロセスには多々課題がある。そうした課題に対する展望や支援のための新たなメニューを検討の上、どう促進するかを位置付けられたい。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>多様な主体により検討した、地域の「将来像」と「まちづくりの方針」を本プランの地域まちづくり構想として策定し、地区計画などの都市計画手法の活用により積極的に支援することで、将来像の早期実現に向けたまちづくりを推進します。</p> <p>検討段階においても、行政情報の提供やまちづくりの進め方のアドバイスなど、必要な支援を行うことで、多様な主体による個性豊かで魅力的なまちづくりが円滑に進められるよう取り組んでまいります。</p>

「立地適正化計画の活用」に関すること (p.32)	8	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住誘導区域の住環境整備をもっと推進して、若者世代が住みやすい、京都で住みたいと思えるようなまちづくりを、行政サービス面も含めて充実させてほしい。 ・ 統合された立地適正化計画への言及が少ないのではないか。 ・ ハザードマップがどこで見られるかを分かるようにした方が良い。 <p style="text-align: right;">など</p>		<p>本市では、都市特性を踏まえ、産業の活性化や働く場の確保、都市環境の向上等を目指す手法として、都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画制度を活用しています。</p> <p>今回、これまで「京都市持続可能な都市構築プラン」において位置付けていた立地適正化計画を本プランに継承する形としております。引き続き、まちづくりに関わる様々な関係分野の計画、施策と連携しながら、持続可能な都市の構築と、地域の将来像の実現に向けた土地利用の誘導を図ってまいります。</p> <p>また、本編にハザードマップ等に関する情報を掲載します。</p>

6 その他（89件）

皆様の主な御意見（要旨）	件数	御意見に対する本市の考え方
<p>【周知方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このような活動をしているというPRがまだまだ少ないように思う。 ・ 市民意見募集の冊子は、回覧ではなく各家庭に配布した方が良い。 ・ 回覧物の文章が長過ぎる。要点を箇条書きにする等の工夫をして、全体で数ページにまとめたものにしなければ、意見募集が形骸化したものになるだろう。 <p>【統計情報等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統計データなどが区単位となっているが、もっと細かい単位で考えていく必要があるのではないか。 <p>【その他の御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画が多い。連携とは書いてあるが、重複感がある。市民からしても全体を俯瞰しづらいし、職員の負担も多いように思う。法律に別で作ることが規定されていない限り統合できるはず。 <p style="text-align: right;">など</p>	89	<p>【周知方法について】</p> <p>本プランのパブリックコメントについては、市民しんぶん全市版（令和8年5月1日号）への関連特集の掲載、市民しんぶんと同時に配送による各戸回覧を実施したほか、市役所案内所、情報公開コーナー、各区役所・支所、市立図書館等での配布、ホームページ、各種SNSでの発信等、様々な手法で周知を行い、多様な御意見をいただけたと考えております。</p> <p>【統計情報等】</p> <p>本プランは、本市の各エリアの現状等について区単位よりも詳細な調査、分析を行い、それらを基に都市計画マスタープラン部会において議論を重ねた上で、作成いたしました。部会資料は紙面の都合で本プランに掲載しておりませんが、本市ホームページから御覧いただけます。</p> <p>https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000343856.html</p> <p>【その他の御意見】</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有の上、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p>

はじめに

1 都市計画マスタープランの構成

第1章 都市の将来像

P 3～5

本市の「都市計画の理念」や全体的な方針となる「基本的な考え方」、目標とする「都市の将来像」を示します。

第2章 テーマ別方針

P 6、7

目標とする都市の将来像実現に向けた基本方針などを「活力・賑わい」「暮らし」「文化・景観」「安心・安全」の4つのテーマ別に示します。

第3章 エリア別指針

大幅に拡充!!

P 8～31

京都基本構想においても重視している「まち柄」をいかした個性あふれる魅力的なまちづくりを進めるため、各エリアのまち柄と将来像を示します。

第4章 実現方策

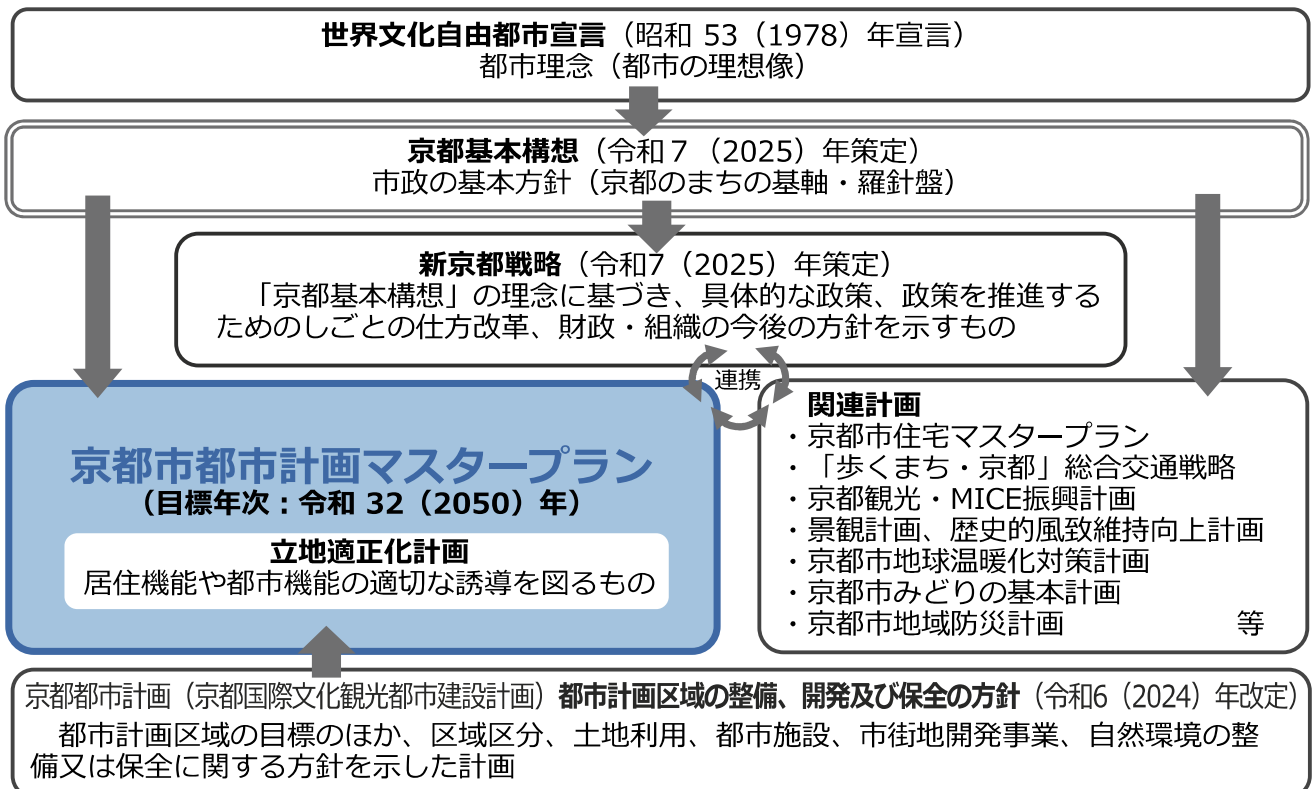
P 32

目標とする都市の将来像実現に向けた「戦略的な都市づくりの進め方」と共に、地域まちづくり構想などについて示します。

※ 本編及び巻末資料等の素案については、表紙に記載のURLからご確認いただけます。

2 都市計画マスタープランの位置付け

- 「京都市都市計画マスタープラン」（以下「本プラン」という。）は、都市計画法に規定する市町村の都市計画に関する基本的な方針で、「京都基本構想」に示す京都の将来像を都市計画の観点から具体化する、長期的視点に立った都市づくりの将来ビジョンです。
- 「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」及び「京都基本構想」に即して定め、「新京都戦略」や関連計画との連携を図ります。
- 目標年次は京都基本構想にあわせ令和32（2050）年とし、25年後を見通して構成します。



第1章 都市の将来像

1 都市計画の理念



京都は、794年の平安京建都以来、都市としての変化・成長を連綿と続け、1200年以上の間、都市機能を遮断することなく存続してきました。その長い歴史は、先人達が戦乱や災害、社会の大きな変化など幾度もの試練に遭遇するたび、さまざまな人間的つながりのもとで知恵と力を結集し、守るべきものは守りつつ、ときには異なる文化や新たな技術も積極的に取り入れながらたくましく乗り越えた歩みでもあります。更に言い換えれば、それは時代に応じ常に個性のある「まち」を築いてきた、たゆまぬ「継承」と「挑戦」、そして「飛躍」の歴史です。

「守破離※」の思想の具現化とも言うべき、こうした京都の誇りある歴史を受け継いで、伝統と革新、まちと自然、そして多様な文化など、とすれば対立的に捉えられやすい事柄の調和あるいは融合を図りながら、未来に向けて京都のまちが世界の中で確かな存在感を持ち続けられる都市づくりに挑む。このことこそが、本市の都市計画の理念であると考えます。

※ 型を忠実に守る「守」、型を意図的に破ることを試みる「破」、独自の境地を確立する「離」の3段階で技藝などの成長プロセスを説く概念。

2 都市計画に関する基本的な考え方

悠久を体現する山々に囲まれ、南に向いて平野部へと連なる盆地の中を清らかな川の流が貫き、地下には琵琶湖に匹敵するとされる豊かな水量を誇る水がめを宿す。そのような地形的特性のもと、先人達は、自然と人間との根源的な不可分性や一体性を思想的土壌として、主体的な努力により京都のまちをその時代にふさわしく発展させ、千年の歴史を紡いできました。明治以降、周辺市町村の編入によって市域は大きく変容してきましたが、京都の地形的なかたちは、これから千年先の未来においても大きく変わるものではありません。そして、周囲の自然との共生を謙虚に志向する思想もまた、その時々によって変わることなく一貫して京都のまちの根底にあり続けています。こうしたまちのかたちや思想を今後も大切に守りながら、以下の視点により都市計画を進めていきます。

(1) 守る×伸ばす（メリハリ）

緑深い山々や美しい川の流をはじめとする豊かな自然、京都ならではのまちの景観を大切にしながら、多彩な学術や技術、文化芸術が集積する「学藝の府」として本市が今後も発展を続けられるよう、守るところは守り、伸ばすところは伸ばす、バランスに配慮したまちづくりを進めます。

○ 「保全」・「再生」・「創造」のゾーンに大別

市街地の規模は拡大しないことを基本としつつ、市域を「保全」「再生」「創造」の3ゾーンに大別します。ただし、各ゾーンにおいて方向性を固定化するのではなく、個別のエリアの特性に応じ、景観・住環境・都市機能の3つの観点から考慮し、メリハリをつけながら、バランスの取れた土地利用を図ります。

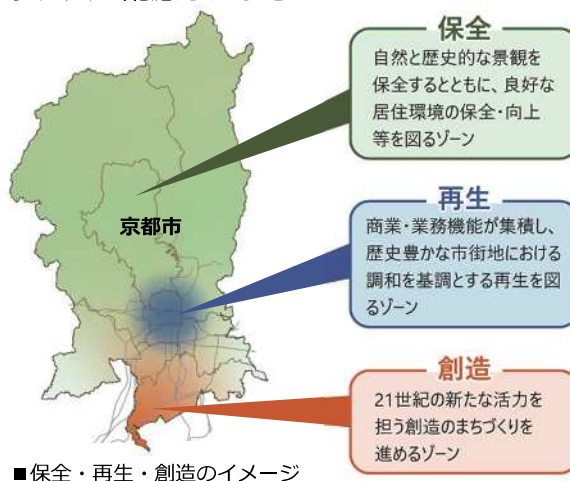
○ 山麓部から市街地内部にかけて段階的な空間構成

山々の景観をいかにしながら、山麓部から市街地内部にかけて段階的な空間構成とします。

保全ゾーン：低層又は中低層を主体

再生ゾーン：中低層又は中高層を主体

創造ゾーン：中低層又は中高層を主体としつつ、環境にも配慮しながら高層も許容



■ 保全・再生・創造のイメージ

※ 上記の考え方を基本としますがそれぞれのゾーンの中でも、個別に「保全」・「再生」・「創造」の考え方があります。例えば、再生ゾーンであっても、そのまち柄に応じて保全的な土地利用をする場所、創造的な土地利用を進める場所があります。

○ 都市の規模の考え方

都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域を適切に設定し、市街地の規模は拡大しないことを基本とします。市街化調整区域では、無秩序な開発を防止することを前提に、地域の定住人口の確保、産業用地の維持・創出などを図ります。

また、都市計画区域外では豊かな自然をいかした観光・サービス業などによる雇用の確保、定住・移住促進や住みやすさの向上を図ります。

第1章 都市の将来像

(2) まち柄×アップデート

「自分たちのまちは自分たちでつくる」「自分たちのまちは自分たちで守る」。番組小学校設立などに象徴される、そんな住民自治の高い志が、市内各地域の個性あふれる特徴、いわば「まち柄」を形作ってきました。京都を京都たらしめている核心的な要素であり、日々の暮らしや、そして個性豊かな小商いをはじめとする生業など、各地域の日常の根幹を成すものであるこのまち柄をいかにしながら、世界中の国や地域から突き抜けた人材が集まるまちづくりを進めていくことが重要です。

○ まち柄に応じたまちづくり

住宅、業務、商業、工業といった基本的な用途に加え、文化施設、学術施設、神社仏閣といった多様な用途が彩りを添える土地利用は、各地域のまち柄を色濃く反映しています。今後もこうしたまちの在りようが受け継がれ、また更なる発展が図られるように取り組んでいきます。

○ 職住共存、職住近接の追求

職住共存は、伝統産業を中心とした京都における基本的な生活スタイルでした。働き方や産業構造が著しく変化した今、そうしたスタイルそのものへの全面的な回帰は困難です。しかし、これからの時代に合った職住共存・職住近接の形を追求し、例えば徒歩や自転車利用の圏内で生活と仕事を両立できるまちは、目指すべきひとつの姿です。まとまった域内で日々の営みを完結させられる暮らし方を望む人々に、活動の拠点として選ばれるまちを目指します。

○ 社会の変化にあわせ適切にアップデート

古いものを取り壊し新たなものに作り替えるスクラップ・アンド・ビルドの考え方は、時として、価値あるものを永く大切にす文化が受け継がれてきた京都のまちづくりにおいては、相応しくない場面もあります。建築物等が必要に応じて適切にアップデートされるよう取り組むことで、まちの魅力や活力の維持・向上を図ります。



(3) コンパクト×ネットワーク

港湾や空港がない本市では、鉄道や幹線道路が交通ネットワークの中で大きな役割を果たしています。それらを中心として形成された都市軸をいかにしながら、京都ならではのコンパクトでまとまりがある、災害にも強いまちづくりを進めます。また、市内の様々なまち柄を持つ地域において、大学や企業、文化施設や図書館、文化財や史跡などが数多く立地していることをいかに、これらをつなぎ合わせるネットワークを人の繋がりといったソフト面を含め強化することで、豊かな暮らしの実現を図ります。これにより、市民はもとより本市にかかわるすべての人々が深い愛着を持って生活を送り、あるいは活動に打ち込むことのできるまちを目指します。

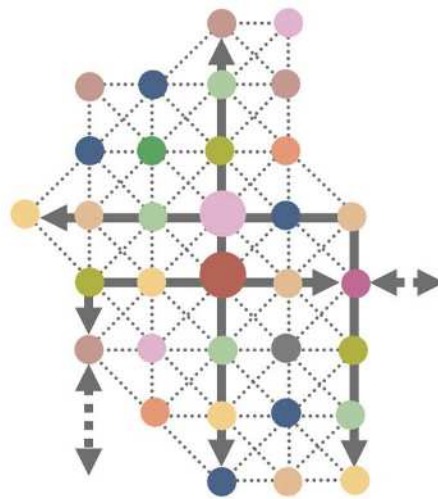
○ 多極型の都市構造・鉄道駅、幹線沿道等に都市機能を集積

鉄道駅などの公共交通の拠点や幹線道路沿道に多様な都市機能を集積し、日常生活を支える商業・サービス、福祉などの機能を備えた生活圏の維持・構築を図ります。

○ 東西・南北の都市軸、地域間や周辺とのネットワーク形成

本市は約5,000の町で市街地が形成され、個性的な地域がネットワークする都市です。多様な都市機能が集積した市内各地の地域拠点と、それらを結ぶ鉄道等の公共交通をはじめとした都市軸を活用し、地域間のつながりを強化します。また、近隣都市との一体性や相互に与え合う影響を視野に入れつつ、京都都市圏の中核としての魅力と活力の維持・向上を図るとともに、けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市）や大阪都市圏も視野に京都独自の求心力を発揮し、京都ならではの魅力の発信を図ります。

加えて、既存のインフラを活用・駆使すること等により、市外からの通勤・通学者や観光客など、市民のみならず本市と様々な関わりを持っている人々にとっても安心感と愛着を抱ける心地よいまちを目指します。



■ コンパクト×ネットワークのイメージ

○ 災害リスクや持続可能性を踏まえた都市づくり

自然災害が頻発・激甚化している昨今、そのリスクに備えた災害に強いまちづくりを行ううえで、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現を図ることの重要性はますます大きくなっています。都市機能の適切な配置や道路網の形成などを通じて、持続可能性とレジリエンス（回復力）のある都市構造を目指します。

3 目標とする都市の将来像

農林業や伝統産業から先端技術産業に至るまで、幅広い分野の産業が展開する「ものづくり都市」。歴史・文化資源を豊富に有し、国内外から多くの人々が訪れる「国際文化観光都市」。多種多様な人材が集う「大学のまち・学生のまち」。京都議定書誕生の地であり、しまつの心が息づく「環境先進都市」。様々な商業機能・業務機能が集積する「京都都市圏の中核都市」。これらをはじめ本市には実に多彩な「顔」、すなわち「強み」があります。そうした「強み」をいかしながら、次の4つのテーマごとに、目標とする都市の将来像の実現を目指していきます。

(1) 活力・賑わい

産業・商業・業務・学術等様々な機能や資源の集積をいかし、長期的な視点を持って、市外の方々とも協力し合い、最新技術を取り入れることで、世界に類を見ない価値を新たに創造し続け、経済の足腰を更に鍛え、まち全体の活力を生み出します。

また、市民生活との調和・両立を図りながら、持続可能な観光・MICEを推進します。

加えて、各分野で多彩な才能を持つ人々を世界中から呼び込むことで、共創を通じた新たな文化や産業が生み出される「クリエイティブな都市」を目指します。



(2) 暮らし

地域コミュニティが受け継がれる身近な生活圏で「職住」のみならず多様な機能が融合した、暮らしや子育てなど日常を送ってみたいくなる生活空間の形成を図ります。そうした取組を通して、誰もが住みたい場所に住み、自由に移動でき、居住者だけでなく京都のまちと様々な関わり方をしているすべての人々が多種多様な形でつながり合い、それぞれの望む生き方や暮らし方を実現できるウェルビーイングなまちを目指します。



(3) 文化・景観

長年継承されてきた建物や庭園、祭りなどの伝統行事、伝統芸能、慣習など人々の日々の営みと不可分である歴史や文化、暮らしの土台となっている豊かな自然や景観を、今後も大切に未来へ引き継いでいきます。また、各地に所在するそうした文化的・景観的資源等をうまくリンクさせて、市民はもとより京都を愛してくださる多くの人々がそれらの魅力に身近に触れ、京都だからこそ得られる学びや気付き、感動に出会えるまちを目指します。



(4) 安心・安全

ハード・ソフト両方の視点から、歴史都市としての特性を踏まえつつ、様々な立場の人々が連携・協力しながら災害への備えを進め、自助・共助・公助それぞれが十分に機能する災害に強い防災・減災が図られるまちを目指します。

また、ユニバーサルデザインの理念に基づき、出自や生き立ち、年齢、性別、国籍、性自認や性的志向、宗教や信条、身体的・精神的特徴にかかわらず、誰もが暮らしやすい、安心で安全な都市を目指します。



第2章 テーマ別方針

1 活力・賑わい

ア 究める 世界に類を見ない価値を創造するまち

① オフィス・ラボの集積、研究開発、共創の場づくり

都心部では、歴史的な町並みといった魅力をいかしながら、企業の本社やオフィス・ラボ等の集積を進めることで、多彩な人々の交流を促し、新たな産業の創出を図ります。

また、ものづくり産業の集積地や研究開発拠点等においては、大学、世界的企業、中小・スタートアップ・ベンチャー企業によるオープンイノベーションや産学公連携を促し、国際競争力を高める環境整備を進めます。

② ものづくり産業などの集積・伝統産業等の振興

工業地域、工業専用地域をはじめ、ものづくり産業の集積地においては、操業環境の保全・向上や生産機能の高度化への対応、幹線道路網の強化、産業用地の創出など、事業環境の整備を図ります。

また、地域で受け継がれてきた歴史・文化、匠の知恵や技をいかしつつ、クリエイティブ産業を支えるまちづくりを進めます。

③ 「ものづくり都市・京都」を支える道路ネットワークの充実

都市の骨格として、渋滞の緩和や交通の安心・安全だけでなく、沿道利用の促進などまちの賑わい・活力にもつながる、持続可能なまちづくりに不可欠な効率的で効果的な道路ネットワーク形成を進めます。



イ 魅せる 夢中と感動に溢れた人生とまち

① 商業機能や文化施設など多様な機能の集積

都心部においては、京都のまちなかにふさわしい魅力的な都市空間を創出し、商業機能だけでなく、美術館や劇場といった文化施設など多様な機能を集積させ、暮らす人、働く人、観光や買物に訪れた人など、世界中の様々な人々が、出会い、交流し、共創するまちを目指します。

② 多彩な共創で未来を切り拓く国際文化観光都市

市民生活と観光の調和・両立を図りながら、持続可能な観光・MICEを推進します。

また、多様で奥深い京都の魅力をいかして多彩な人々を呼び込むことで、新たな文化や産業の創出、京都の魅力・活力の向上を目指します。



2 暮らし

ア 住まう それぞれの望む暮らし方を実現できるまち

① ニーズや地域の特性に応じた住宅供給や住環境の確保

ライフステージに応じた住まいを選択できるよう、地域特性を踏まえた居住環境の創出を進めるとともに、既存住宅の適切な更新やリノベーションによる住宅供給を図ります。

また、住環境に配慮しながら、多彩な用途が適度に混在し必要な機能が身近にある、誰もが心地よく豊かに暮らし、過ごすことができるまちづくりを進めます。

② 日常生活を支える都市機能の適切な配置

鉄道駅周辺などの地域の核となるエリアでは、一定規模の商業施設や総合病院、各種サービス施設や居住地に近い働く場の充実など、地域特性に応じた都市機能の維持・誘導を図ります。

また、日常生活エリアでは、日々の暮らしに欠かせないスーパーや診療所、高齢者福祉施設、保育所といった毎日の暮らしを支える都市機能の充実と適切な配置を進め、安心・快適な生活圏の形成を図ります。



イ 繋ぐ・動く 健康で文化的な生活を営み続けられるまち

① 暮らしを支える公共交通の利便性向上・交通マネジメント

暮らしに不可欠な生活交通の維持・確保に加え、京都駅や観光地の周辺における混雑対策をより一層進めることで、すべての人が快適・便利に利用できる公共交通の維持・向上を図ります。

また、自動運転やMaaS (Mobility as a Service) 等の最先端技術を取り入れ、持続可能都市を支える公共交通ネットワークづくりを進めます。



② ウォーカブルなまちづくり

人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進し、「歩行者」を最優先とするウォーカブルな都市空間を確保することで、誰もが「出かけたくなる」魅力と活力あふれるまちの実現を目指します。

また、公共交通と徒歩や自転車や新たなパーソナルモビリティなどをかきこく組み合わせ、快適に出かけるスマートなライフスタイルの定着など、安心・安全な移動をするための取組を進めます。

③ 地球環境と共生する都市

新たな公共交通システムの検討をはじめとする公共交通網の充実やリサイクルの徹底、都市の木質化やグリーンインフラの整備などに取り組み、地球環境と共生する都市を目指します。

3 文化・景観

ア 守る 自然との不可分性・一体性を体感・体得できるまち

① 良好な景観の形成・創造

京町家や神社仏閣など風情ある建造物が織りなす歴史的な町並み景観の保全に加えて、京都らしい情緒を色濃く残す路地空間の保全・再生、人々の生活や生業から醸し出される文化的景観の保全・形成、地域の活力や魅力を向上させる景観づくりを進めます。

② 自然の保全・活用

山々や河川をはじめとする自然景観を今後も維持保全しながら、自然と調和したゆとりと潤いのある市街地の形成を図ります。

また、山間部においては、無秩序な開発の防止を前提に、農林業や各地の資源をいかした地域づくりを進めます。

イ 交ざる・憩う 世界中の人々から活動の拠点として選ばれるまち

① 文化・学術のまち

歴史や文化、学問や産業など、京都独自の特性をいかし、文化芸術とまちづくりの連携を図るとともに、世界中から集まった多様な人々が出会い、集い、交流することで、新たな魅力や価値を創造し、新旧の魅力が融合する都市を目指します。

② 交流するまち

日常に潤いをもたらす、健康や交流を育むなど、様々なニーズに対応する身近な公園や緑地、スポーツ・レクリエーションなどの施設の整備や多様な主体による柔軟な施設の運営を進めます。

また、公共空間を広く地域に開くよう取り組むとともに、都市開発の機会をとらえ魅力的な空間の創出を誘導し、様々な人々が交流する賑わいあふれる拠点の充実を図ります。



4 安心・安全

ア 防ぐ・備える 危機に備え、対応し、立ち直ることができるまち

① 建築物・インフラの防災性能の向上

京都が持つ都市防災上の課題に対し、ライフライン・橋りょうなどの都市施設や建築物の耐震化、防火性能の向上、道路ネットワークの形成、治水対策等を推進するとともに、着実な老朽化対策により、計画的で適切な維持、修繕を図ります。

② ソフト対策・被災後の復興

頻発・激甚化する水害や土砂災害などに対応するため、日常的に防災を意識した「フェーズフリー」の観点も取り入れながら、自然災害に対する意識啓発や情報発信などに努めます。あわせて、浸水防止策の推進や土地利用の規制・誘導に向けた検討を行います。

③ 共創による地域防災力の強化

被災後の迅速な復旧や支援活動に向け、関係機関との連携の強化や市民との協働による防災活動に取り組み、市民や来訪者、行政が一体となって災害にしなやかに対応できる都市の形成を図ります。

イ 支え合う 多彩なつながりで、安心と愛着を抱けるまち

① 多様なコミュニティ活動

住民自治の伝統を継承する地域コミュニティの絆は、平時の穏やかな暮らしの土台であると同時に、災害など有事の際にも人々の命を守る礎となります。この視点の下、地域との連携をこれからも大切にして、日頃から各地でコミュニティの醸成・維持等が図られ、地域活動が活発に展開される都市を目指すとともに、京都市と様々なかたちで関わる人同士が多彩なつながりを持ち、安心と愛着を抱きながら過ごせるまちづくりを進めます。

住宅から小規模宿泊施設への転換が相次ぎ、地域内の調和が乱されるケースなど、地域コミュニティに影響を及ぼす課題に対しても、都市計画の観点から対策を検討します。

第3章 エリア別指針

1 市全体のまちづくりの方針

○ 前提となるエリア分類

京都の都市特性を十分にいかした持続可能な都市構造の実現を図っていくため、「保全」「再生」「創造」の土地利用を基本に、市内各地域それぞれの関係性なども考慮しながら、市内全体を5つのエリアに分類し、役割を示します。

① 広域拠点エリア (歴史的都心地区周辺、京都駅周辺等)

国内外から訪れる人々の活動を支えるエリア

② 地域中核拠点エリア (周辺部等における地域の拠点)

多様な都市機能が集積する地域の拠点となるエリア

③ 日常生活エリア (市街化区域(④を除く))

多世代が安心・快適に暮らすエリア

④ ものづくり産業集積エリア (工業地域、工業専用地域、らくなん進都等)

京都にふさわしいものづくり産業を集積するエリア

⑤ 緑豊かなエリア (市街化調整区域、都市計画区域外)

農林業の振興等により、地域の生活・文化等の維持継承を進めるエリア



○ 個々のまち柄に応じたまちづくり

各エリア分類が示す全体的な方向性に、京都の特性である個々のまち柄を掛け合わせることで、世界中の国や地域から突き抜けた人材が集まり、様々な人々が交ざり合い活躍する場や機会のある、誰もが心地よく豊かに暮らし、過ごすことができるまちづくりを進めます。

～ 個々のまち柄に応じたまちづくりのイメージ ～

用途純化*が進むことで、暮らしや地域コミュニティ形成に必要な施設が不足している、あるいは魅力的な地域特性をいかしたまちづくりができないといった課題も生じており、これに対応し、京都ならではのまち柄を守り育てていきます。

例えば、用途制限をベースとしながら、暮らしに欠かせない施設や地域コミュニティ形成のために役立つ施設が不足している場所に、**日常利便施設を適切に配置**したり、住む人が気軽に立ち寄れる**新たな出会いと交流を生む場所づくり**をすることや、大学の周辺には住環境と調和しながら大学と連携した**スタートアップ・ベンチャー企業のラボ**、地場産業が盛んな地域では**直売所やレストラン**などの立地を進めることで、多様な交流を促進し、まちを活性化します。

① 広域拠点エリア

② 地域中核拠点エリア

③ 日常生活エリア

④ ものづくり産業集積エリア

⑤ 緑豊かなエリア



個々のまち柄

* 住宅、商業、工業などの機能をエリアごとに分離し、混在を抑制すること

2 個別のエリアごとのまちづくりの方針

○ エリア別指針（次のページから）

個々のエリアの強み・役割を明確化し、エリア間相互のつながりも踏まえ、個々のまち柄に応じたまちづくりを行うため、市民・事業者にとってより身近な方針として各エリアの将来像を示し、共有します。

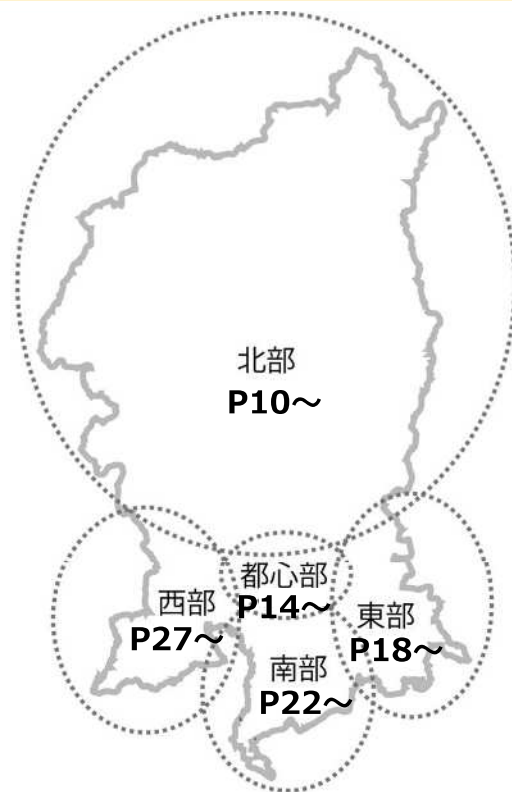
エリア別指針において、まち柄や将来像については、特徴的なエリアを選定して、代表例として記載しているものもあり、それらの内容については、記載のエリア以外においても該当する場合があります。

また、エリア別指針に記載のないエリアのまちづくりについても、本プランで示す都市の将来像やテーマ別の方針などを踏まえながら、記載のあるエリア同様に着実に進めてまいります。

なお、将来像については、現在のまちの状況を踏まえお示したものであり、今後社会経済動向の変化等があれば、それに応じ適宜見直しを図ります。

○ 方面分け

地形や土地利用の状況などに加え、市内外へ伸びる鉄道や道路のつながり、駅拠点のまとまりなどを考慮し、市域を「北部」「都心部」「東部」「南部」「西部」の5方面に区分したうえで、個々のエリア別指針を示します。



3 エリア別指針の記載内容

5つの方面それぞれにまちづくりの基本コンセプト、方面の全体図を示しています。

地図上の吹き出しの箇所が、指針を示すエリアです。まちづくりの方向性が近いカテゴリごとに色分けしています。

各方面の概要を示しています。

各カテゴリの概要を示しています。

エリアごとにエリア別指針を示しています。前半が「まち柄」、後半が「将来像」となっており、まち柄については、現在のまちの様子をイメージできるように記載しています。

■ 記載例（北部方面）



エリアごとに拡大図をつけています。エリア名の色で囲まれている部分が概ねの範囲です。（地域中核拠点については、オレンジ色で囲まれている部分です。）

また、それぞれのエリアのまち柄の記載に関係する施設をポイント（★、◆等）で示しています。

エリアのまち柄や将来像のイメージをイラスト*で示しています。

* イラストは、まち柄等を分かりやすく示すものであり、建物や人などのサイズ、デザインなどは実際とは一致していません。

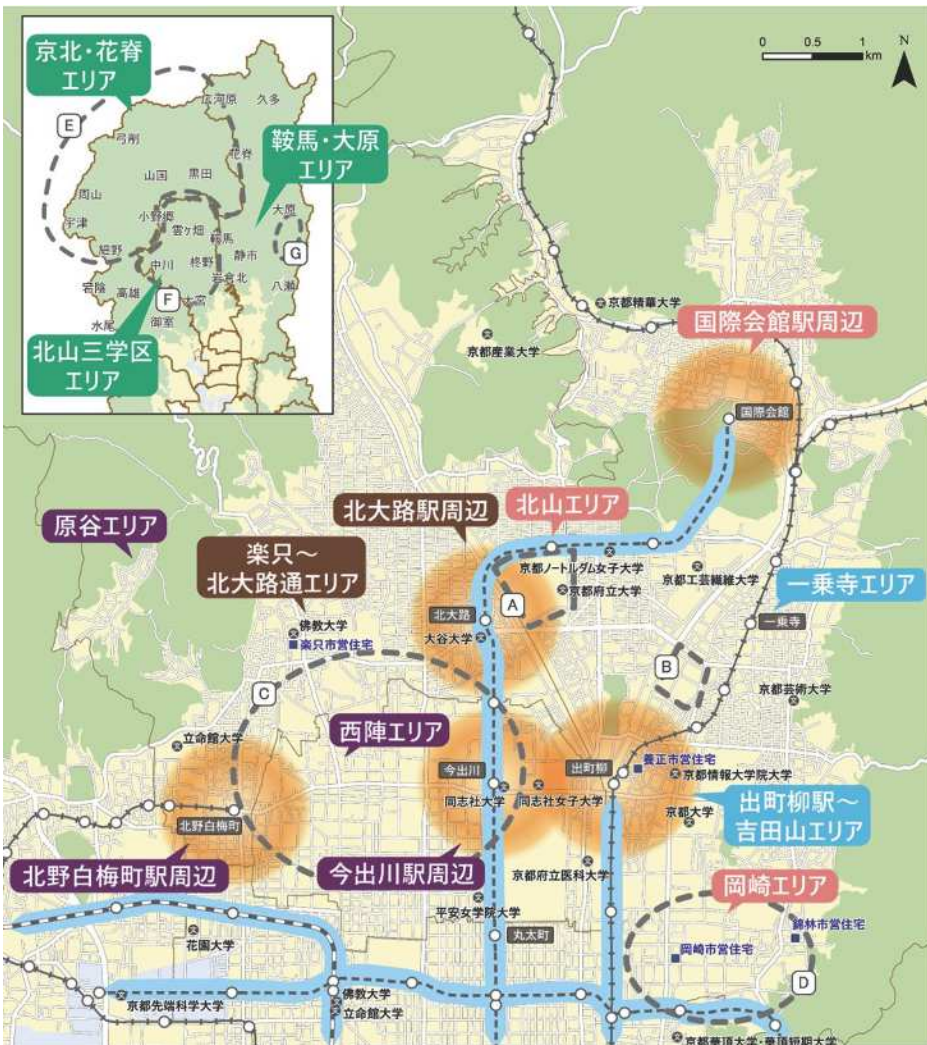
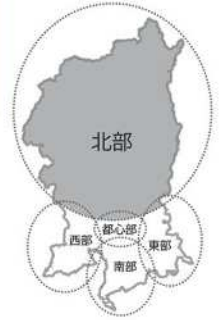
エリア別指針の凡例

- ① 広域拠点エリア
 - ② 地域中核拠点エリア
 - ③ 日常生活エリア
 - ④ ものづくり産業集積エリア
 - ⑤ 緑豊かなエリア
 - 都市軸（主な鉄道）
 - 広域連携軸（主な鉄道）
 - 主な都市計画道路
 - 団地再生事業中の市営住宅
 - 主な活用検討地
 - 主な地域のまちづくり方針等*
- ※ 計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含みます。

第3章 エリア別指針 【北部方面】

■ まちづくりの基本コンセプト ■

豊かな自然や文化、伝統産業、学術資源など、暮らしに息づく貴重な資源を守り、いかして、京都の新たな魅力と価値を創出する



● 主な地域のまちづくり方針等

- A 北山文化・交流拠点地区
- B 高野東開・西開地区
- C 西陣を中心とした地域活性化ビジョン
- D 岡崎地域活性化ビジョン
- E 京都京北未来かがやきビジョン
- F 北山三学区まちづくりビジョン
- G 大原地域

※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

北山・東山の峰々や衣笠山など盆地の外周を囲む山、船岡山・吉田山・糺の森・府立植物園といったまちの中の緑、高野川・賀茂川や宝ヶ池・深泥池等の水環境をはじめ、豊かな自然が各所に広がっています。また、大学や文化・交流施設が数多く立地しているほか、京町家などの歴史的な町並みや古社・名刹、さらには西陣織等の伝統産業、賀茂なす・すぐき菜等の京野菜や北山杉といった農林業などの生業が今に継承されています。

人々の日常生活を支える多様な機能の確保と共に、良質な賑わいと調和した潤いとゆとりある居住環境の維持を図ります。あわせて、古くから受け継がれてきた多様な地域資源と新しい産業や技術とが結び付き、クリエイティブな活動が展開され、新たな魅力や価値が創出されるまちを目指します。

1 若者が愛着を持ち、挑戦し続けられるまち

数多くの大学が立地し学生が多く居住する地域である一方、就職期にはその多くが転出する傾向があります。また、大学発のスタートアップ・ベンチャー企業が増えています。それら企業が入居するオフィス不足が課題となっています。周辺の住環境との調和の下、大学入学を機に転入した若者が地域に愛着を持ち、新たな挑戦をし続けられるまちを目指します。

● 出町柳駅～吉田山エリア（地域中核拠点エリア含む）

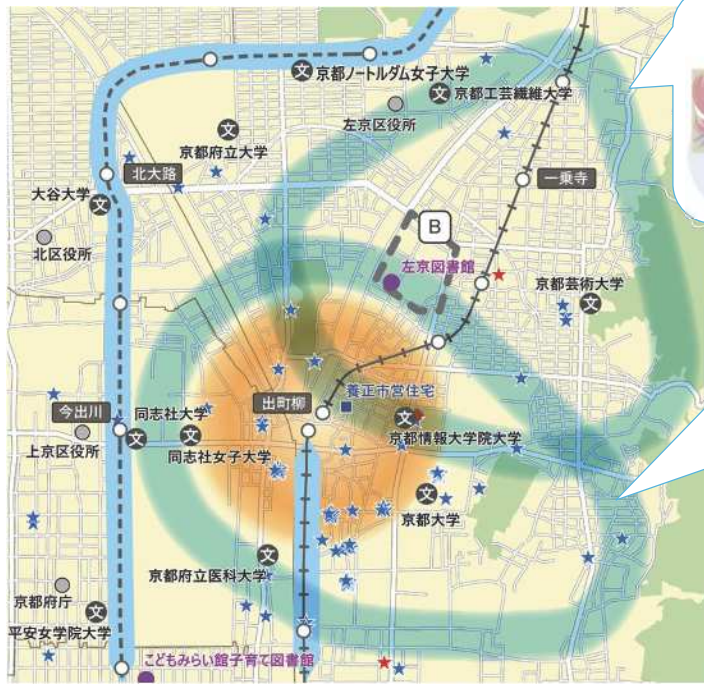
出町柳駅では、京阪電車の北端駅、叡山電鉄の南端駅として多くの人々が行き交い、周辺の商店街も買い物客や「聖地巡礼」に訪れるアニメファン、感度の高い映画愛好家などで賑わっています。駅からすぐのいわゆる「鴨川デルタ」周辺では、様々な世代の人々が思い思いに憩いのひと時を楽しんでいます。団地再生事業により、駅の北側周辺には今後まとまった規模の将来活用用地がうまれる見込みです。また、京都大学吉田キャンパスの周辺では、大学周辺ならではのアカデミックで自由闊達な雰囲気は漂う一方、老舗和菓子店や神社仏閣、歴史ある建築物も点在しています。

住環境との調和の下、京都らしい学生街の雰囲気を維持しつつ、駅を中心に更なる賑わいの広がりや都市機能の集積を図るとともに、地の利をいかして附属病院を含め大学と緊密に連携するスタートアップ・ベンチャー企業の立地を進め、若い世代の挑戦を後押しします。

● 一乗寺エリア

「ラーメン街道」とも呼ばれるラーメン店の集積地として知られるほか、その他のジャンルの多彩な飲食店、書店や古着屋など、個性的な店舗が各地に所在し、若者が多いエリアです。京都工芸繊維大学や京都芸術大学などのデザインやアートを学ぶ学生の姿もよく見られます。

多様な個性・世代の人々が集い、独自の文化を発信する地域特性が更にいかされ、大学卒業後も若者が愛着を持って住み続けたいくなるまちを目指します。



● 出町柳駅～吉田山エリア



- ★ 主な企業等
- ★ 主なスタートアップ企業等
- ◆ 主な寺社

B 高野東開・西開地区

2 文化芸術・MICE・学術が多様な交流をうむまち

文化芸術・MICE・学術関連等、多彩な施設が立地し、各種展示会や会議、イベントなどの際には多くの人々が訪れます。一方で、人が憩い、滞在する機能を高めることにより、上質な活気が更に生み出されるポテンシャルを持ったエリアもあります。良好な住環境や豊かな緑と調和した魅力的な機能を一層充実させ、更なる賑わいや多様な交流をうむまちを目指します。

● 国際会館駅周辺（地域中核拠点エリア）

宝が池公園や山々の広大な緑、我が国モダニズム建築の傑作とも評価される国立京都国際会館を間近にして、整然とした区画に一戸建ての住宅が多く建ち並んでいます。周辺にはスーパーやドラッグストア、ホームセンターなど生活に必要な品々を扱う店舗も揃い、駅前のバス乗り場では様々な路線を走るバスが発着しており、利便性が高いエリアです。

落ち着いた環境の中、人々が心豊かに暮らすとともに、魅力ある拠点が形成され、学会や会議等で訪れる国内外の人々の交流が盛り多い成果を生み出すことが期待されます。

● 北山エリア

北山通沿いには人気のベーカリーやレストラン、菓子店などが立ち並び、府立植物園には多様な世代の人々が思いのひと時を過ごしに訪れています。京都コンサートホールや府立京都学・歴史館、府立大学も立地し、周辺には静かな住宅街が広がります。

京都が世界に誇る文化と憩いに包まれた交流エリアとして、文化芸術と学術の香りが漂う、品のある華やぎと賑わいが人々を惹きつけるまちを目指します。

● 岡崎エリア

京都市京セラ美術館、ロームシアター京都、みやこめっせ、京都市国際交流会館、京都市動物園といった市施設のほか、国・府・民間の文化施設も集積する、本市における文化芸術の一大拠点とも言えるエリアです。岡崎公園内では多数イベントが開催されており、多くの人々を集めています。

周辺の豊かな緑や住環境に配慮しながら、今後市営住宅の団地再生事業により生まれる将来活用地等もいかしてエリアの魅力をもっと磨き高め、その魅力を周辺へと波及させることで、本市全体に活力をもたらす文化芸術のまちとしての更なる進化を図ります。



A 北山文化・交流拠点地区

- ★ 主な企業等
- ◆ 主な寺社
- ◆ 主な公園・運動施設等
- ◆ 主な文化芸術関連施設等

D 岡崎地域活性化ビジョン

3 歴史・文化、匠の知恵や技をいかした創造と革新のまち

悠久の歴史の中で培われた多彩な文化が、現在も日常生活の中に息づいており、地域行事が大切に受け継がれています。西陣織をはじめ、長い歴史の中で地域に根付いた伝統産業の長期的な低迷が続く中、それを生業にする方々が様々な工夫を講じながら課題に立ち向かっています。また近年、京町家や路地などのまちの魅力をいかしながら、アクセサリーや陶芸からビールに至るまで、新たな「クラフト（手仕事）」が多彩に生まれつつあるエリアでもあります。伝統と革新それぞれの知恵や技術が磨き上げられ、あるいは時に互いに交わることで、京都ならではの逸品や価値が絶えず生み出され続けるまちを目指します。

● 西陣エリア

長きにわたり京都の発展を支えてきた西陣織などの伝統産業、地域の人々に愛されてきた老舗店舗が商うと同時に、新しい分野のものづくりや生業に挑戦する人々も集ってきています。

地域で受け継がれてきた伝統技術をいかしつつ、クリエイティブ産業を支える拠点として、暮らしと調和した働く場を創出するとともに、北野天満宮周辺の公的な未利用地を活用することなどにより、まちの魅力・活力を向上させます。

● 北野白梅町駅周辺（地域中核拠点エリア含む）

多くの参拝客で賑わう、あるいは地域の中で静かにたたずむ神社仏閣や、京都最古の花街の風情ある町並みなど、京都の歴史を体感できるスポットが数々あります。市電が走る頃から続く商店街とスーパーが軒を連ね、日々を過ごすにも便利です。

駅西側の豊富な観光資源エリアと立命館大学、駅東側の伝統産業エリアの相互のポテンシャルが創造性を高めるエリアとして、住環境との調和の下、オフィスや生活利便施設、クリエイティブ産業の立地を促進し、更なる活気を創出します。

● 今出川駅周辺（地域中核拠点エリア）

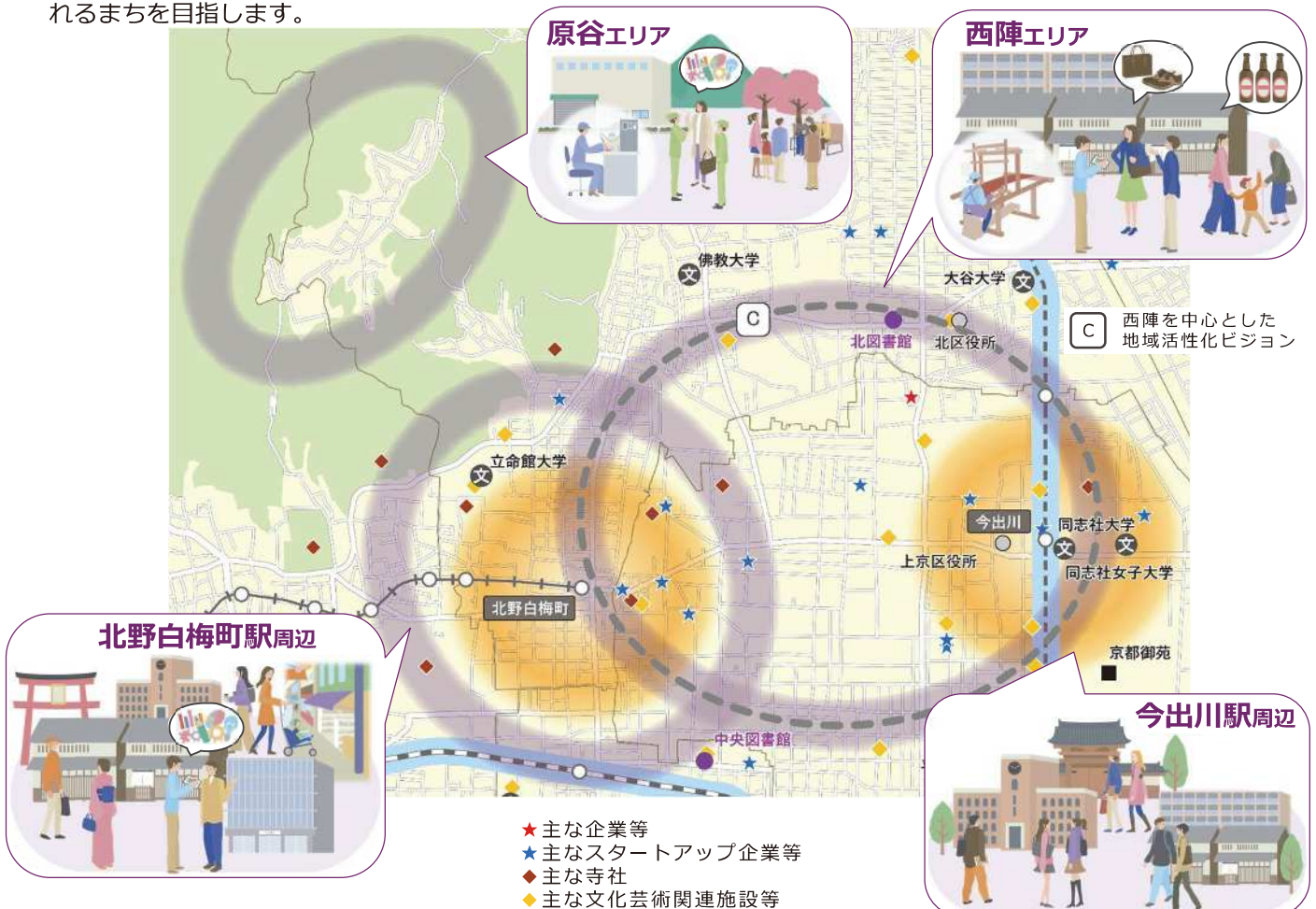
同志社大学で学ぶ学生の姿が多く、同時に周辺の名刹や京都御苑などを訪れる観光客も往来しています。学生街らしい風景の中にも、歴史ある建築物や遺構、伝統文化に関わる施設や店舗等が立地する、「故き」と「新しき」が共存するエリアです。

歴史的な景観や緑と調和した閑静な住宅地を維持するとともに、大学との連携等により、更なる魅力を創出します。

● 原谷エリア

戦後間もない時期の困難を乗り越えて開拓が果たされた地に、伝統産業などの工房が点在し、春には桜の名所に多くの人々が訪れます。

住工共存の来し方を行く先へ継ぎ、ものづくりにチャレンジしたい人々を迎える場として、新たな価値が創出されるまちを目指します。



4 地域の賑わいの中心となるまち

本市北部の交通の要衝であるとともに、歴史ある数々の寺社が今なお伝わるエリアで、周辺には大学や商店街、商業施設もあり多様な人々が往来しています。一方で、大通りから少し入れば閑静な住宅街が広がります。本市北部の交通結節点として多くの利用者が行き交う北大路駅周辺と市営住宅の団地再生事業により生まれる将来活用地等のポテンシャルをいかし、地域の賑わいの中心となるまちを目指します。

● 北大路駅周辺（地域中核拠点エリア）

地下鉄とバスの結節点、その直上に立地する複合商業施設には多くの人々が訪れますが、周辺の大きな道路から中に入れば一戸建ての多い静かな住宅地が広がっています。大谷大学、京都産業大学等近隣の大学による地域と連携した活動も進んでいます。周辺の商店街などにも、名店と評される店舗等が点在するエリアです。

便利な交通結節点である利点をいかして、住環境とも調和した、周辺からますます人々を惹きつける商業施設の立地を進め、更なる賑わいを創出します。

北大路駅周辺



楽只～北大路通エリア



● 楽只～北大路通エリア

北大路通や千本通を走るバス路線が充実しており、バス1本で各地に出られるほか、北大路駅へのアクセスもしやすいエリアです。周辺には有名な神社仏閣が数々あり、大切に守られてきた伝統歳事を間近に感じることができます。近隣の佛教大学との連携で、地域防災や地域活性化の取組が進んでいます。

市営住宅の団地再生事業により生まれる将来活用地等をいかして、多様な都市機能の集積を進めることにより、地域の新たな魅力となり得る拠点を創出します。



5 山あいの豊かな自然の中、独自の伝統文化が受け継がれるまち

峰々の深い緑に包まれて、古来人々の信仰を集めてきた寺社が静かにたたずむ中、それぞれの地域の伝統文化を今に受け継ぐ集落や田園が所在する、素朴な美しさをたたえた自然と人の営みとが調和したエリアです。一方で、人口減少や少子高齢化により、生業としての農業の担い手不足や山林の維持管理が困難な状況になってきており、地域コミュニティの衰退が進んでいるとともに、日常生活などに必要な交通手段の確保が課題となっています。多様な地域特有の暮らしを継承するとともに、豊かな自然をいかにしながら交流を深めるまちを目指します。

● 京北・花脊エリア

平安京の時代から建築用材の供給地として知られてきた京北、修験者の行場として歴史を刻んできた古刹や愛宕信仰による伝統行事等が伝わる花脊、それぞれに独自の特色や魅力があります。そうした魅力に惹かれて、都市部ではなく豊かな自然の中での暮らしを望む地域外の人々が移住するケースも見られます。

豊かな自然に囲まれた教育環境をいかにしながら、2拠点居住やワーケーションといった新たな暮らしや働き方のニーズにも対応した環境の整備を進め、定住・移住の促進につなげます。

● 北山三学区エリア

源氏物語の落葉姫ゆかりの地である小野郷、小説「古都」の舞台となった北山杉の里中川、鴨川源流の杣人の村の伝統を継ぐ雲ヶ畑と、各々で自然と調和した暮らしの文化が育まれてきたエリアです。静謐な環境で仕事に打ち込みたい芸術家の方等が移住した事例もあります。

市街地からの良好なアクセス性もいかにしながら、交流人口が定住・移住人口につながるまちを目指します。

● 鞍馬・大原エリア

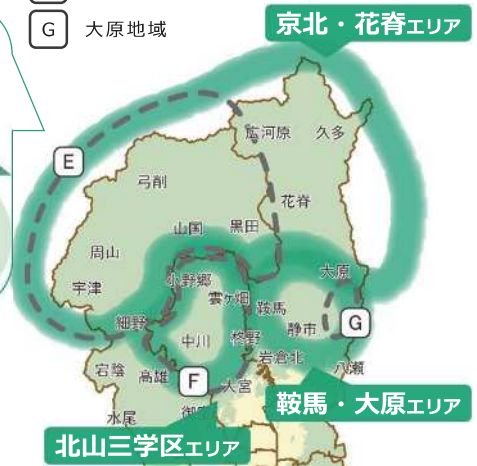
信仰や修行の地としての歴史が紡がれる中、独自の食文化や地域ならではの年中行事が伝承されており、多くの観光客が訪れているエリアです。

暮らしを支える施設や観光資源などをいかした地域づくりを進め、地域の生活やコミュニティを維持するとともに、多様な人々の交流を促します。

京北・花脊／北山三学区／鞍馬・大原エリア



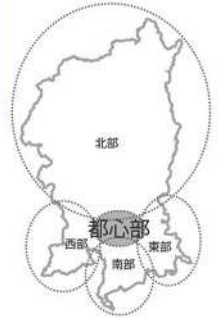
- E 京都京北未来かがやきビジョン
- F 北山三学区まちづくりビジョン
- G 大原地域



第3章 エリア別指針 【都心部方面】

■ まちづくりの基本コンセプト ■

京都らしい歴史的なストックと最先端の機能が重なり合う都心空間の魅力に磨きをかけ、京都の都市格の象徴として都市活力をけん引する



● 主な地域のまちづくり方針等

- A 職住共存地区整備ガイドプラン
- B 明倫元学区地区
- C 姉小路界わい地区
- D 祇園四条地区
- E 京都市崇仁地区将来ビジョン 検討委員会報告書
- F 京都駅東部エリア活性化将来構想
- G 京都駅西部エリア活性化将来構想
- H 京都駅東南部エリア活性化方針

※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

京都らしい個性と魅力を持った職・住・学・遊が共存する地域です。本市及び京都市圏の中心地として、商業施設やオフィスビル、文化施設などが集積している一方、三山の稜線や鴨川など自然の風景を身近に楽しむこともできます。また、歴史ある神社仏閣や、京町家など伝統的な建築物が、暮らしの文化や四季折々の多彩な年中行事、そして地域コミュニティと共に大切に受け継がれています。

歴史的な町並みと現代的な町並み、複合的な都市機能が重なり合う京都ならではの都心空間の魅力を更に高める機能を充実させて、多様な人々が集い、暮らし、働き、交流し、京都の都市格の象徴として都市活力をけん引するまちを目指します。

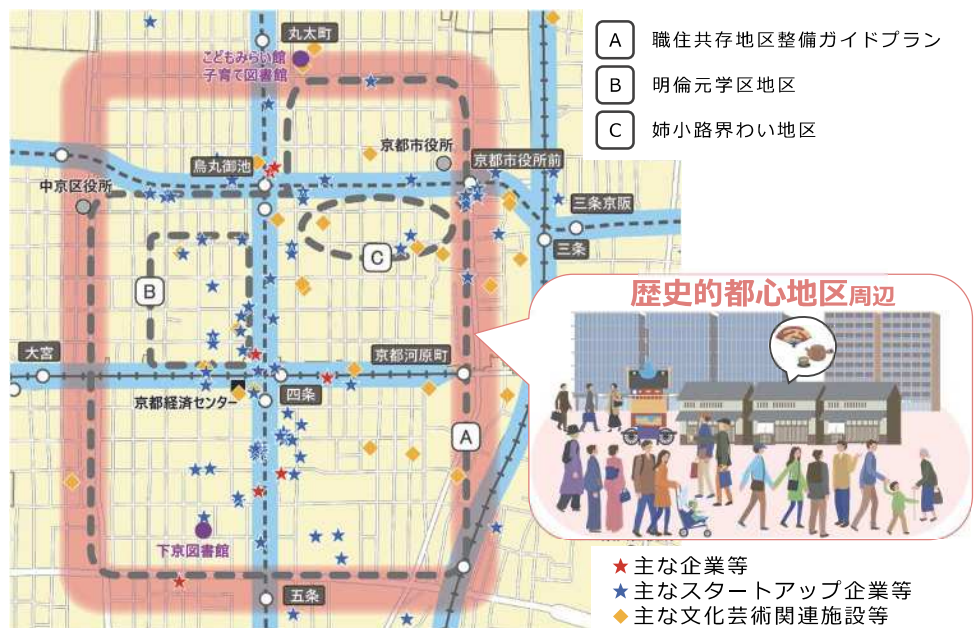
1 京都ならではの都心空間を体現するまち

古くからの町割りが今なお残る中、多くの企業や商業施設、宿泊施設等が立地する、まさに歴史的都心部のエリアです。マンションが多い一方、大きな道を少し入れれば京町家など歴史ある建物が残る昔からの町並みもあります。しかし近年、そうした建物の滅失が進み、それに伴い伝統的な町割りや職住共存的暮らしの文化が失われつつあります。また、住宅価格の上昇、オフィス空間の不足等も課題となっています。

● 歴史的都心地区周辺

きものや仏具、京扇子などの伝統産業製品、菓子類や日本茶など多岐にわたる分野の老舗が今も商いを続けると同時に、多くの人々が住まい地域コミュニティが息づくエリアです。域内には山鉾町も含まれており、祇園祭の頃には会所や各家を舞台に地元の人々や来訪者の交流が生まれ、大いに賑わいます。

受け継がれてきた歴史・文化や京町家などの貴重なストックを守り、いかしながら、活発な交流が活力をうむまちとして、複合的な機能が重なり合う京都ならではの都心空間を目指します。



2 京都の玄関口として都市活力をけん引するまち

国際文化観光都市である京都市にとって、京都駅は市民はもちろん、国内外から訪れる人の多くが利用する、文字どおり代表的な「玄関口」です。地下街や駅前の商業施設等はたくさんの人々の姿で賑わいます。一方で、駅前にオフィス空間が不足していたり、駅前広場や道路が混雑し、歩行空間が狭あいである人が滞留・往来できる空間が少ないなど、ポテンシャルをいかしきれていない面もあります。

● 京都駅周辺

駅の北側では昭和初期のものも含め早くから大規模な建物が立ち並び、その多くが更新時期を迎えているため、これを機に更なる発展が見込めます。一方で、古くからの旅館街や懐かしさが漂う飲み屋街、大寺院の周辺に集まる仏具や珠数などの伝統産業製品に関連する老舗等も魅力です。駅の東から南東にかけては、京都市立芸術大学や民間の文化芸術施設、さらには企業進出等による活性化が期待されます。南側にはショッピングモールやホテルなどが立ち並び、西に目を向ければ梅小路公園、寺社や大学といった多様な地域資源が集積するなど、4方向全てにポテンシャルや特性があるエリアです。

- ★ 主な企業等
- ★ 主なスタートアップ企業
- ◆ 主な寺社
- ◆ 主な公園・運動施設等

とりわけ駅に近接する場所においては、国内外問わず都市間競争が激化する中で、国際競争力を持つ京都経済のけん引役となるオフィス・ラボ、賑わいの核となる商業施設、さらにはそうしたコア的な役割を担う施設と連携する拠点などの都市機能の高度集積を進めるとともに、ウォークブルで豊かな公共空間やストリートが多様な交流をつむ駅前空間を創出します。



- E 京都市崇仁地区将来ビジョン検討委員会報告書
- F 京都駅東部エリア活性化将来構想
- G 京都駅西部エリア活性化将来構想
- H 京都駅東南部エリア活性化方針



3 都心西部の拠点として多様な機能が集まる活気あるまち

鉄道やバスなど高い交通利便性があり、名所旧跡のほか商店街や商業施設等も各所に所在する、住む人と訪れる人双方によって活気がうまれているエリアです。一方で、交通面の強みや地域特性などをいかせる伸びしろがなお存在します。西部方面へ活気を導く拠点として、多様な機能を集積させ、更なる魅力の創出を目指します。



● 二条駅周辺

地下鉄、JR、バスが通る交通利便性の高さに加え、商業施設やスーパー等が近くにあり、生活利便性が高いエリアです。また、近年は近くにホテルの立地も進み、市外からの来訪者にとって使い勝手が良いエリアにもなっています。

都心西部にある主要なサブゲート※となるよう、将来的な駅前広場の再編も視野に都市基盤整備を進め、それらの取組により、多様な都市機能の集積を促進し、駅周辺の魅力を更に向上させていきます。

※ 主要なターミナルにおける乗降や交通手段の接続などの機能を補助する隣接駅

● 四条大宮周辺

都心部における貴重な駅前広場があり、地域の人々の活動の場等として利用されています。また、発祥・創業の地、歴史的遺産が数々あり、三条通・後院通・大宮通に個人や地元企業が営む個性的な店舗や飲食店等が多数集まって、主に地元民の往来によって活気がうまれています。明治期には大宮通周辺が都市部と田園地帯との境目であったところ、徐々にそこから西へと都市化が進んだ経緯があり、目抜き通りである四条通沿いは、西院駅附近にかけてなお更なる発展のポテンシャルを秘めています。

都心部の活気を西部方面へつなげる拠点として更なる魅力向上を目指します。



4 京都固有の歴史や暮らしの文化と賑わいが調和するまち

いずれも鉄道駅周辺の交通の便が良いエリアで、それぞれに特徴あるまちの歴史を刻みつつ、多くの来訪者を迎えています。場所ごとに地域特性をいかす可能性を宿す一方、住環境が周辺の行き過ぎた賑わいにおびやかされているエリアもあります。京都らしい暮らしを守りながら、多様な人が働き、交流するまちを目指します。

● 丸太町駅周辺（地域中核拠点エリア）

官公庁やオフィスが周辺に立地する中、近年ではホテルの立地も進んでいます。緑豊かな京都御苑に散策等に訪れる人が多く見られ、周辺のこどもみらい館ではたくさんのお子もたちが元気よく遊んでいます。個性豊かな飲食店等が数々立地し、お気に入りのお店を探しに回るのも楽しいエリアです。

良好な環境とも調和しながら、商業・業務機能の更なる充実を図るとともに、文化庁、裁判所、府庁などから成る京都の官庁街としての風格のある拠点を形成します。

● 三条駅周辺

東海道五十三次の西の起点としての歴史を持ち、駅伝発祥の地としても知られる三条大橋の付近で、河原町や先斗町、祇園など周辺の繁華街にアクセスしやすいエリアです。大阪方面から多くの人々が京阪電車で訪れる拠点である現状に加え、今後、閑空からの特急「はるか」の山科駅までの延伸により、同駅から地下鉄東西線を経由して訪れる人の流れがうまれることが想定され、サブゲートとしての更なる発展が期待されます。

商業・業務機能などの充実とともに、学校跡地や団地再生事業によりうまれる将来活用地等も有効に活用することにより、多様な機能が集積した賑わいと活力あふれる拠点を形成します。

● 東山駅周辺（地域中核拠点エリア）

古くからの住宅と学生マンション等が混在しているエリアで、昭和レトロな雰囲気の人気商店街やこだわりの名店が点在し、岡崎エリアや祇園方面へ向かう観光客の姿も多く見られます。著名な門跡寺院が所在するほか、地元神社では約千年もの間しっかり継承された行事が毎年活気をうんでいます。

地域の商業・業務機能の充実により更に多くの人が行き交い、ついでこかに立ち寄りたくなるまちを目指します。



5 アートや伝統・先端産業などが融合したクリエイティブなまち

京焼・清水焼をはじめとする伝統産業、あるいはこれまでにないものを生み出す挑戦を重ねる先端産業に携わる人々、またアートを志す学生たちが集まっています。こうした人々の多彩な技術、知恵、思いのクロスオーバーが、まちに更なる活力をもたらす可能性があります。文化芸術都市の取組や伝統産業などをいかした新たなイノベーション拠点の創出を目指します。

● 七条駅周辺（地域中核拠点エリア）

京都駅東部エリア活性化将来構想の対象エリアに位置しています。近隣には歴史ある寺社や博物館が立地し、国内外の観光客の往来が多いエリアです。七条通沿い等には老舗の菓子店や料理店が並ぶほか、近年は飲食店等の新規出店も見られます。京都市立芸術大学、京都美術工芸大学、京都市立美術工芸高校が立地しており、学生たちによるアートの力がまちの活力をうむことが期待されます。また、七条通から五条通附近にかけての高瀬川周辺には個性的な店舗等が軒を連ねる独特の町並みが多くの人々を惹きつけており、民間の団体による川沿いの親水空間の創出やアーティストのアトリエの整備なども行われてきました。

これら多様な主体による取組の連動により、文化芸術都市・京都の新たなシンボルゾーンとして更なる魅力向上を目指します。

● 五条坂～東福寺駅エリア

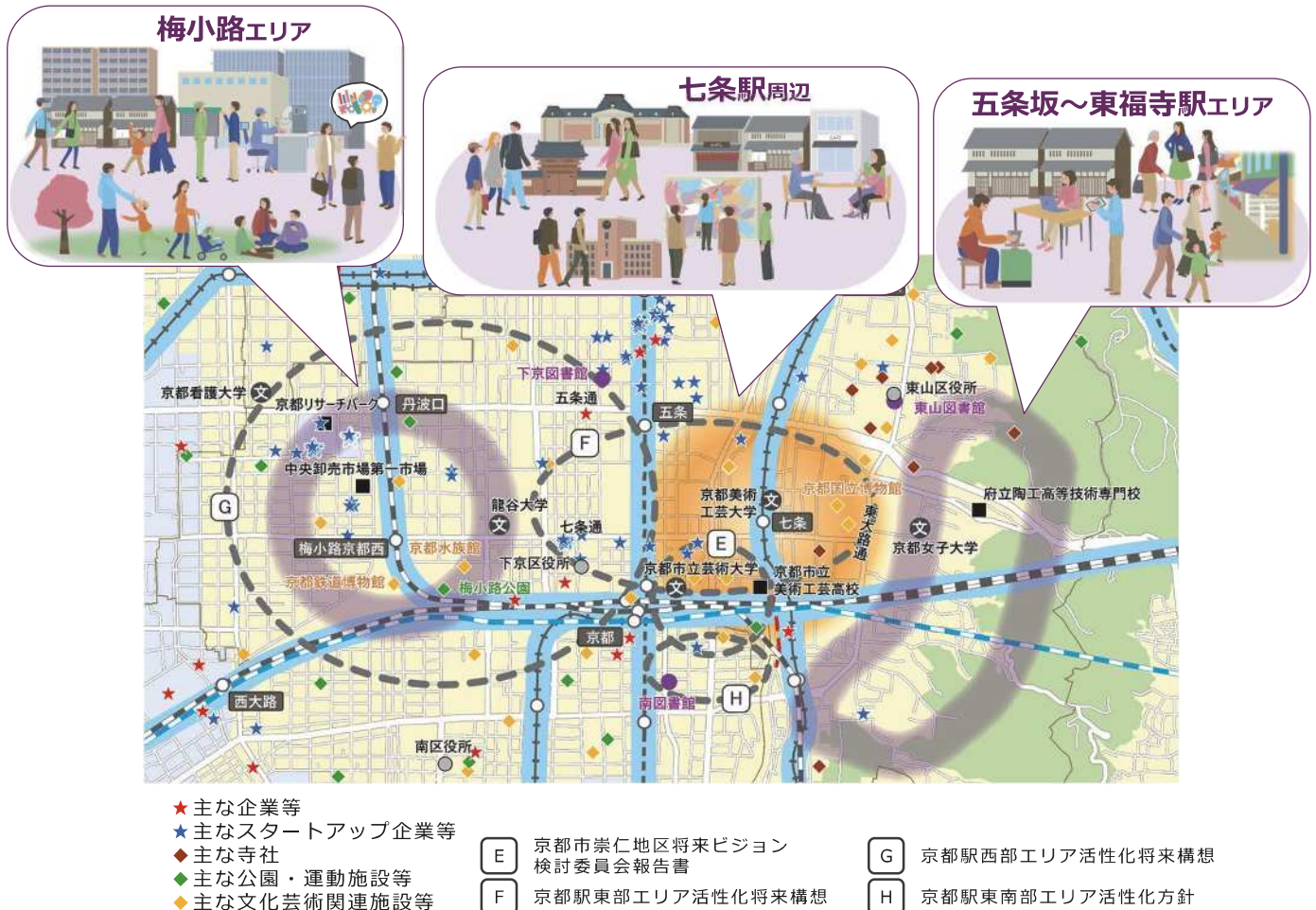
東大路通沿いの商店街では、昭和の雰囲気の色濃く残すお店が商いを続けているほか、近年新規出店の事例もあり、イベント時には子どもや地域住民に混ざって地域活動に取り組む近隣の京都女子大学等の学生の姿も多く見られます。また、東大路通から東側には、府立陶工高等技術専門学校や京焼・清水焼の窯元が集まる陶芸のまちの一面も残っていますが、近年は作業場や倉庫等が小規模の住宅地に代わるなどの傾向もあります。

京都駅から近い利便性の高さや近隣の文化芸術に関する取組、この地に受け継がれる伝統産業等をいかし、新たなチャレンジを志す人を後押しするなど、住環境や地域コミュニティを大切にしながら、新たな魅力の創出を目指します。

● 梅小路エリア

京都駅西部エリア活性化将来構想の中心エリアです。JR梅小路京都西駅の開業以降、周辺では宿泊施設や商業施設などの開発が進み、廃線高架の活用などユニークな取組も見られます。各種の催しが多数開かれ、水族館や鉄道博物館等もある梅小路公園には、家族連れをはじめ多くの人々が訪れています。近接する京都リサーチパークには、新たなビジネスや産業等に挑戦する企業が数多く入居しており、多様な人々の交流によって地域課題解決等へのイノベーションがうまれる「クリエイティブ・タウン」実現に向け、まちづくり活動が活発に行われています。

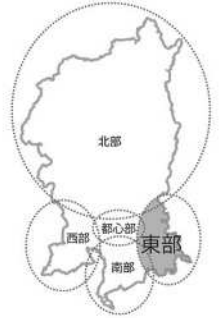
中央卸売市場では再整備に伴い有効活用が生まれる見込みで、特色ある既存ストックの有効活用とあわせて、クリエイティブな人材が集うこの地の特性をいかしたまちづくりを後押しします。



第3章 エリア別指針 【東部方面】

■ まちづくりの基本コンセプト ■

時代を捉え、地の利をいかして、新たな魅力の創出と都市機能の集積を図ることにより、次の世代にも選ばれるまちをつくる



古くは東海道や奈良街道など旧街道沿いにまちが発展し、現代においても外環状線をはじめとする幹線道路、鉄道路線が走る交通の要衝として市街地が形成されています。高度経済成長期の人口増加に伴って開発された住宅地が多く、市内中心部や周辺の都市のベッドタウンとしての性格が強い地域です。京焼・清水焼、京仏具などの伝統産業の生産団地を抱えていることに加え、金属箔、金属粉などの産業も発達し、山科川や音羽山、醍醐山などの豊かな自然に恵まれ、山科なすやぶどうなどの特産品もあります。また、国宝に指定されている琵琶湖疏水といった歴史・観光資源も各所に点在しています。

これまでに整備された地下鉄東西線や新十条通に加え、今後の特急「はるか」の山科駅延伸や、検討が進む国道1号バイパスの整備などにより更に高まる市内各地や近隣都市等へのアクセス性をいかし、新たな魅力の創出や活力の向上に寄与する多様な都市機能の集積を目指します。あわせて、良好な居住環境の創出や文化・教育のまちづくりを進め、賑わいと潤いのある都市空間を構築し、次の世代にも選ばれるまちを目指します。

● 主な地域のまちづくり方針等

- A meetus 山科-醍醐
- B 京都刑務所敷地の活用を核とする
未来の山科のまちづくり戦略

※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

1 京都の東の玄関口として多くの人が集う魅力あるまち

近世に京と東国を結ぶ東海道が本格整備されて以来、交通の要衝としての役割を担ってきた山科の地は、今も地下鉄・JR・京阪の各駅が所在し、東西と南北いずれにも幹線道路が走る、まさに京都の東の玄関口です。

● 山科駅周辺（地域中核拠点エリア）

食品も豊富に扱う日用品等販売店、生活雑貨店や衣料品店等が入るラクト山科が多くの人で賑わい、今後の関西国際空港からの特急「はるか」延伸、機能を充実させた図書館や市内東部地域初となる大型の子どもの屋内遊び場の整備などによって更に発展が期待できるエリアです。また、旧東海道沿いやラクト山科西側等に商店街があるなど地域密着の店舗も多く立地し、様々なイベントも積極的に行われています。

今後更に多くの人を訪れるエリアとなるポテンシャルをいかし、宿泊機能をはじめ、サブゲートにふさわしい駅前空間の創出や商業・業務機能の集積などを進め、更なる魅力向上を図ります。

A meetus 山科-醍醐



2 賑わいあふれる歩きたくなるまち

幹線道路沿いには商業施設等が集中し、大規模なマンションの立地が進んでいます。また、本市と大津市方面を結ぶ道路として、国道1号バイパスの整備が検討されており、完成すればその沿道附近にも新たな可能性がうまれます。更なる魅力の創出や活力の向上に資する多様な都市機能を集積するとともに、安心・快適で歩きたくなるような賑わいと潤いある都市空間を形成します。

● 外環状線沿道

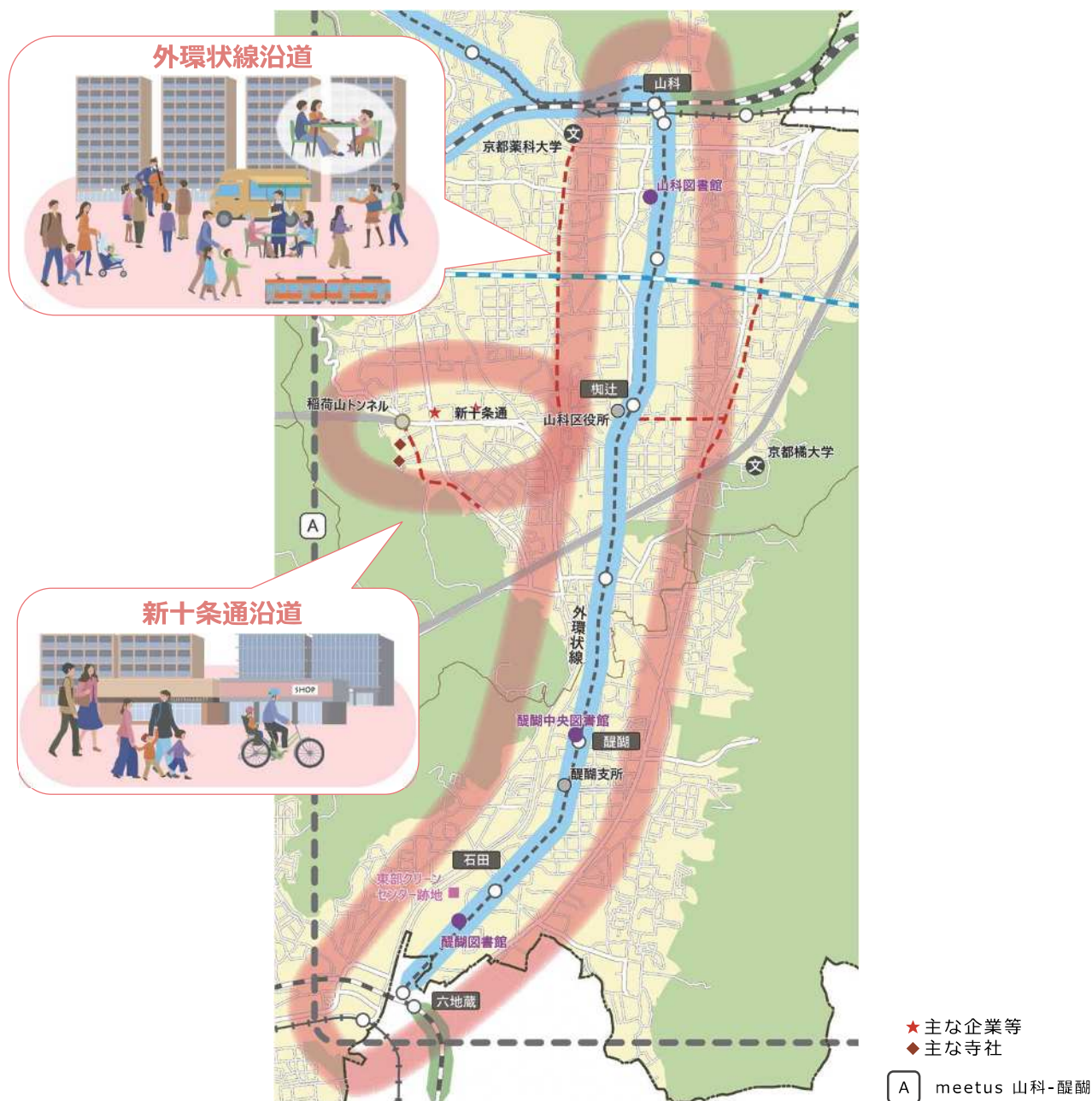
現状では駐車場等の低未利用地が散見されますが、今後、幹線道路と地下鉄という交通基盤の強みをいかした土地の高度利用が期待されます。

東部クリーンセンター跡地活用をはじめ、地下鉄駅周辺で展開される新たな魅力づくりとも連動しながら、若年・子育て世帯のニーズに合った居住環境を創出するとともに、広場空間や店舗を誘導するなどにより、まちの賑わいや歩きたくなる空間を生み出し、人と人のつながりを促します。

● 新十条通沿道

外環状線との交差点附近には区役所や医療施設、スーパー、1階に店舗の入る集合住宅等が立地していますが、西側に向かって更なる発展が期待されます。地元の人々等の思いがこもる年末の風物詩「山科義土まつり」の際には、外環状線等と合わせ、大石内蔵助ゆかりの寺社まで義土隊が練り歩くコースとなります。

稲荷山トンネルの無料化以降、市内中心部や南部方面等へのアクセシビリティが高まっているエリアであり、幹線沿道を中心に、新たな魅力と活力の創出に資する多様な都市機能の集積を図ります。



3 多様な住まいのニーズを受け止めるまち

山科区の住宅地には高度経済成長期にスプロール的に開発されたものも多く、道路が狭く狭小な敷地が多いなどの課題があります。若年・子育て世帯のニーズに合った居住環境の創出などにより、住まいの選択肢を充実させ、魅力的な住宅地の形成を図ります。

● 外環状線後背地

駅から少し離れているところもありますが、三条通、外環状線や国道1号、名神高速道路など主要な道路に近く、自動車の利用を前提とした、ガレージ付きの一戸建てが多く見られるエリアです。各小学校区では、地元の人々が様々な地域活動を展開しています。

とりわけ、小さな子どもを伴う世帯層など、日用品の買い出しや行楽等に自動車の利用を求める若年・子育て世帯の住まいニーズを受け止めることのできるまちを目指します。

外環状線後背地



A meetus 山科-醍醐

4 大規模な住宅団地を活用した新たな魅力を発信するまち

大規模な住宅団地が立ち並ぶエリアで、入居者の年齢層や世帯構成の変化、施設によっては老朽化への対応、空き住戸の活用などが課題となっています。既存施設を適切に維持・活用し、若者から高齢者まであらゆる世代にとって魅力的な居住環境の充実を図るとともに、新たな魅力の発信や創出など、若年・子育て世帯の呼び込みにつながる取組を進めます。

● 東野駅西側エリア

中世期に山科に広大な寺域があった歴史を伝える寺院や廟所、土塁跡の残る公園など、子連れの方や高齢者など多世代の方の散策に適したスポットがある中に、公営住宅等の団地が比較的多く立ち並ぶエリアです。高齢化や単身世帯の孤立化などの課題がある一方、公営住宅においては、若年・子育て世帯の定住促進に向けた取組などが進んでいます。

既存公的ストックを有効に活用しながら、地域コミュニティの活性化を促し、若年・子育て世帯をはじめとする多様な世帯が、安心して住み続けることができるまちを目指します。

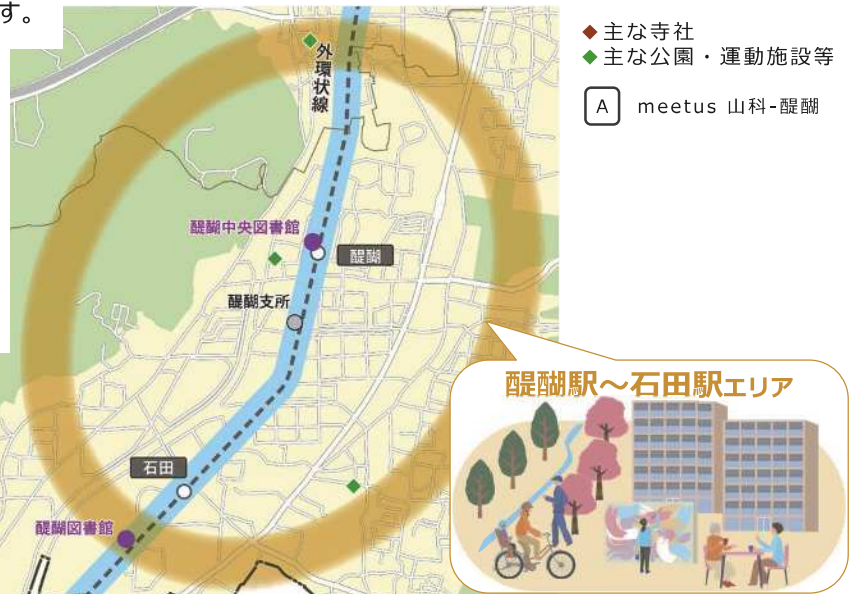
東野駅西側エリア



● 醍醐駅～石田駅エリア

大規模な公的賃貸住宅が多く立地するエリアです。近くを流れる山科川に沿う遊歩道では、水辺環境や並木など自然の美しさを愛でながら散歩やサイクリングを楽しむことができます。石田駅周辺の複数団地の一体的な団地再生の検討を進めつつ、空き住戸を若手芸術家への支援に活用するなどユニークな取組を行っています。

既存公的ストックを有効に活用しながら、新たな住まいと賑わいを創出し、周辺エリア一帯の魅力向上を図ります。



醍醐駅～石田駅エリア



A meetus 山科-醍醐

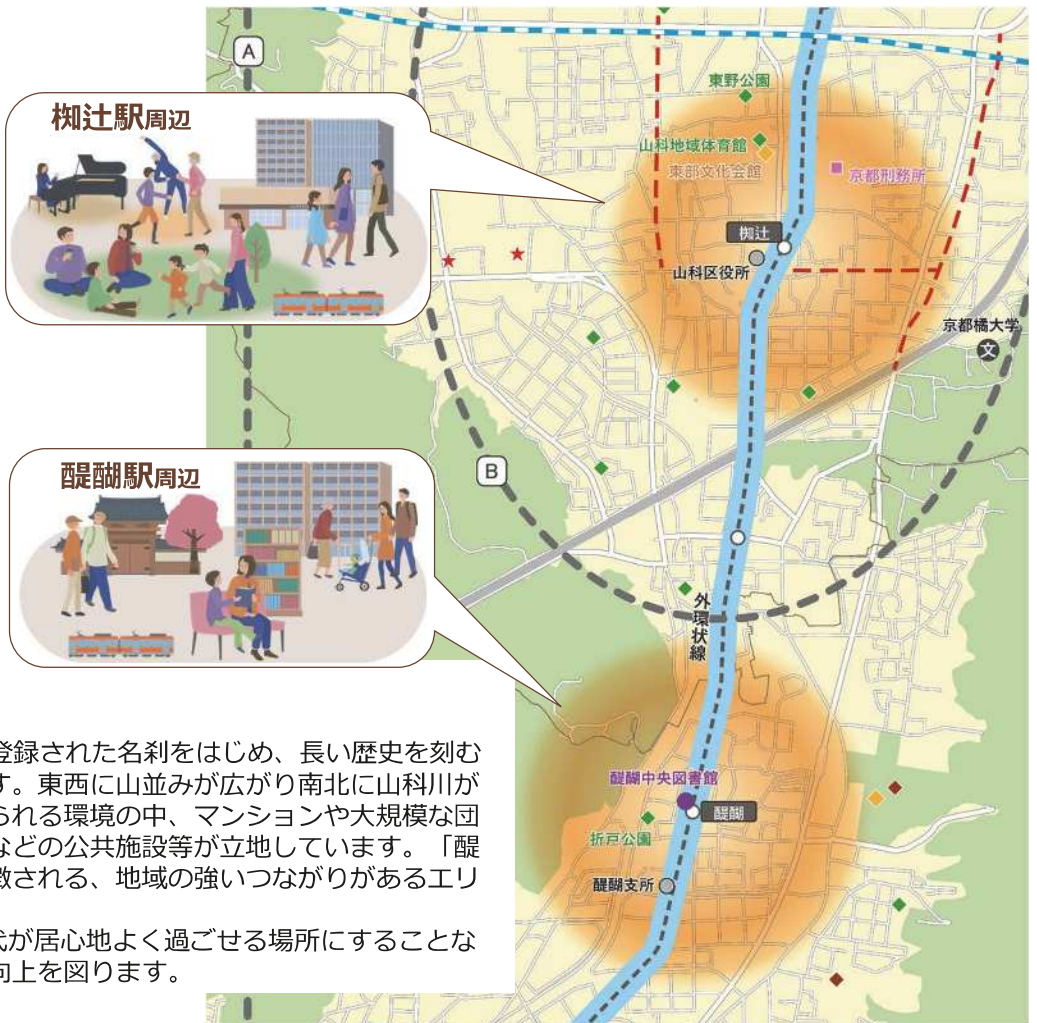
5 地域の人が集い、学び、交流する拠点となるまち

公共施設や商業施設など多くの人々が利用できる施設が所在しており、地下鉄駅からも比較的近い、それぞれにポテンシャルを宿すエリアです。各公共空間の魅力向上・活性化を図り、それらをいかして子どもから大人まで地域の人が集い、学び、交流する拠点を創出するとともに、バス・地下鉄が連携した便利な交通ネットワークの実現に向けた取組を進め、周辺の居住環境の向上を図ります。

● 柳辻駅周辺 (地域中核拠点エリア)

山科区役所、スーパー、雑貨店などが駅周辺に揃う便利なエリアです。また、近隣には東野公園、山科地域体育館、東部文化会館など、地域の交流や活動の場として利用される施設や、本市が敷地の有効活用を要望している京都刑務所も所在しています。柳辻駅を最寄りとする京都橘大学もあり、学生たちが地域のまちづくりにも参加しています。

将来的な区役所庁舎の再整備などにより、柳辻駅～東野公園一帯の魅力を上向きさせ、東部地域の新たな核となるエリアの創出を目指します。



● 醍醐駅周辺 (地域中核拠点エリア)

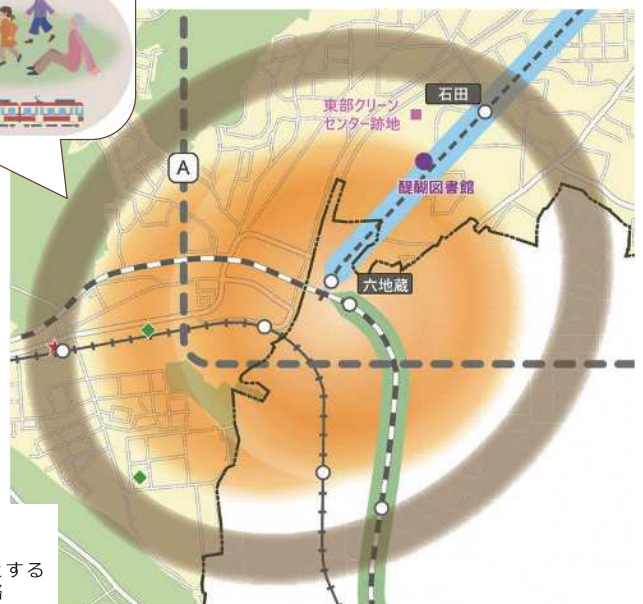
周辺には世界文化遺産に登録された名刹をはじめ、長い歴史を刻む数々の寺院が所在しています。東西に山並みが広がり南北に山科川が流れる、自然を身近に感じられる環境の中、マンションや大規模な団地、商業施設、中央図書館などの公共施設等が立地しています。「醍醐コミュニティバス」に象徴される、地域の強いつながりがあるエリアです。

駅周辺の公共空間を多世代が居心地よく過ごせる場所にするなどにより、居住環境の魅力向上を図ります。

● 石田駅～六地藏駅エリア (地域中核拠点エリア含む)

地下鉄・JR・京阪の結節点で、駅周辺には大型ショッピングセンターが立ち並び、隣接してホームセンターも立地するなど生活利便性が高いエリアです。駅直近において更なる活性化が期待されます。また、東部クリーンセンター跡地では、コミュニティスペースや子どもの居場所・遊び場などを備えた複合図書館、大規模な緑地などを一体的に整備すること等を検討しています。

子どもや大人が集い、つながり、笑顔で満たされる場を創出してエリアの魅力を高め、それを周辺へと波及させていきます。



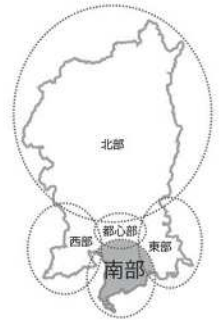
- ★ 主な企業等
- ◆ 主な寺社
- ◆ 主な公園・運動施設等
- ◆ 主な文化芸術関連施設等

- A meetus 山科-醍醐
- B 京都刑務所敷地の活用を核とする
未来の山科のまちづくり戦略

第3章 エリア別指針 【南部方面】

■ まちづくりの基本コンセプト ■

京都の新たな活力を生み出す創造ゾーンを中心として、ものづくり産業などの集積、快適な暮らしとも調和する都市環境の創出を図る



- 主な地域のまちづくり方針等
- A 京都駅東南部エリア活性化方針
 - B 大岩街道周辺地域の良好な環境づくりに向けたまちづくりの方針
 - C 久我・久我の杜・羽束師地域の総合的なまちづくりビジョン
 - D らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム
 - E 向島ニュータウンまちづくりビジョン
 - F 伏見ルネッサンスプラン
- ※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

高速道路や鉄道などの交通網が充実し、市内外へのアクセス性が高いことなどから、幹線道路沿いを中心に企業の本社ビルや生産拠点、研究所等が集積しています。城下町や門前町、計画的開発地など多様な特性を持った市街地が形成されており、酒造業など地場産業の盛んなエリアでもあります。平野部には工業地のほか住宅地や農地が広がり、桂川・宇治川・東高瀬川といった河川や東山連峰など自然環境にも恵まれています。

本市の創造ゾーンを中心として、伝統産業から先端産業まで幅広い知恵と技術の蓄積、充実した都市基盤などの強みをいかしながら、ものづくり企業をはじめとする多種多様なオフィス・ラボ、生産拠点の更なる集積を進めます。あわせて、駅周辺のエリアを中心に、働きやすく、居住環境とも調和した快適な都市空間を創出します。

1 産業の集積地として京都の活力をうむまち

オフィス・ラボ、商業、ものづくり、物流など、様々な経済活動の場が集積し、京都のまちの活力の源となっています。地域特性に応じた産業が集積し、それぞれの強みを伸ばすまちづくりを推進します。

● 京都駅南部エリア

ショッピングモールやホテルなど規模の大きな施設が並び、今後も文化芸術系の施設やオフィス等の開発などにより発展が期待できるエリアです。周辺では団地再生事業によりうまれる将来活用地のほか、学校跡地など活用の可能性を有する公有地もあります。

京都駅やらくなん進都との近接性をいかし、イノベーションがうまれるオフィス・ラボを集積するとともに、クリエイティブな活動の場となり、京都の南部創造をリードするまちを目指します。

● **らくなん進都**

京都の活力を支える南部地域の先導地区としての位置付けのもと、企業の集積や質の高い都市環境形成などに向けた取組を進めているエリアです。地元企業のオフィス・ラボ等の施設の新築や、市外企業の京都進出などの事例があるものの、幹線沿道において土地の低未利用が散見されるなど、整備された都市基盤が十分に活用されていない状態にあります。

新しい京都を発信するものづくり拠点として、魅力的な都市環境を生み出し、国内外の最先端のものづくり産業をはじめとする企業の進出意欲を高め、本社オフィスや生産、研究開発、流通機能などの充実を目指します。また、本市が敷地の有効活用を要望している京都拘置所及び京都運輸支局が立地する地域では、更なる都市機能の集積を促進します。

● **久我・羽束師西部エリア**

田畑が多く、なすやみず菜、畑菜などの特産品をはじめとする農業が行われている中に、各種の生産拠点等が立地しています。農業・製造業・運輸業と、多岐にわたる産業関連施設が集積するエリアです。

周辺の環境と調和しつつ、将来の都市計画道路の整備も見据え、企業の操業環境の向上を図り、エリアの中に市内で唯一工業専用地域があるという地の利をいかし、更なる産業集積を進めます。



久我・羽束師西部エリア

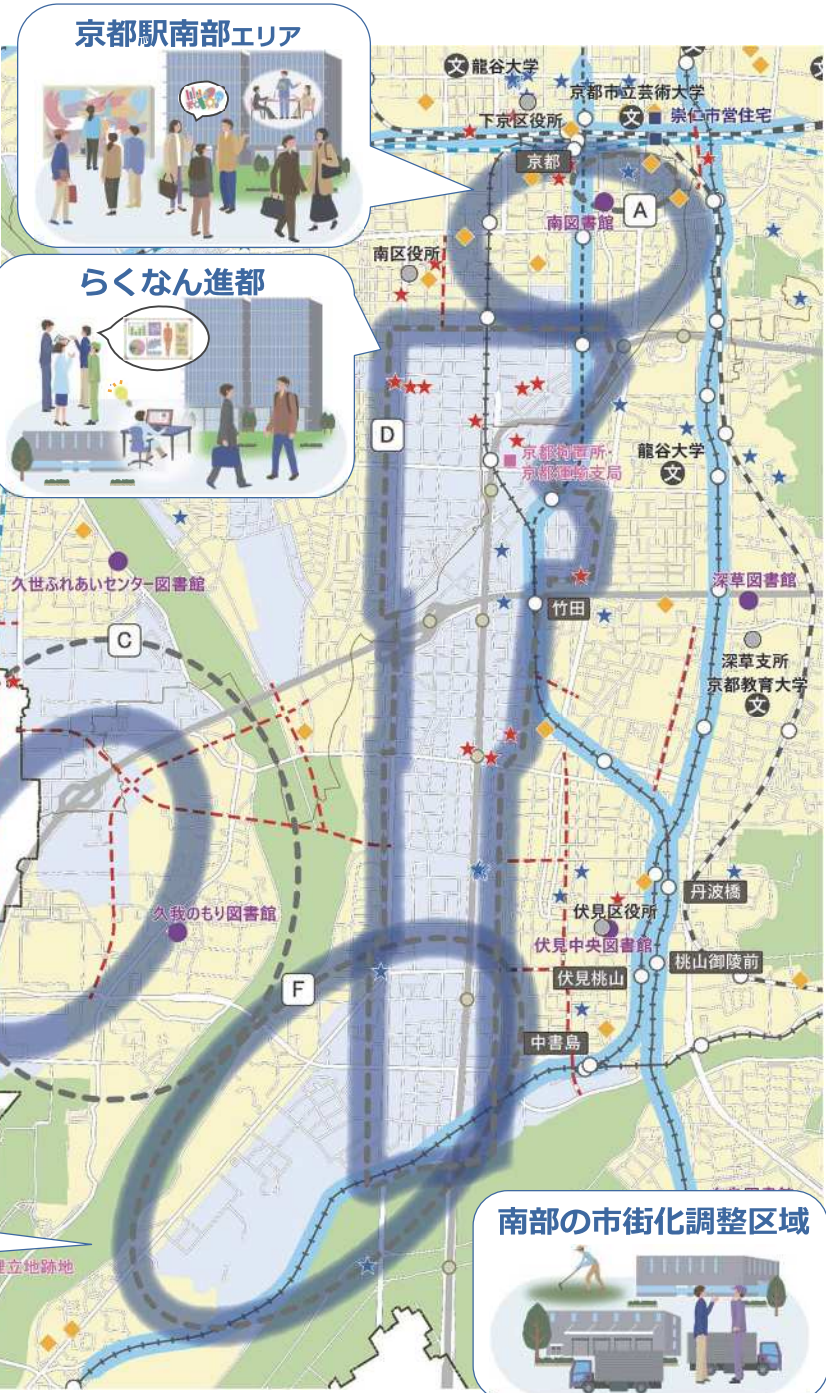
● **横大路エリア**

古来、大阪と京都を結ぶ交通の要地となってきたエリアです。現代においても物流施設が多く立ち並ぶなど流通分野で大きな役割を担っています。土地区画整理事業の進展により、今後も南部創造のまちづくりの推進力をうむことが期待されます。

整備される都市基盤をいかし、多様な産業の集積を進めて、隣接する住居系地域も含め、働く人にとって快適で魅力的な都市空間の整備を図ります。



横大路エリア



- ★ 主な企業等
 - ★ 主なスタートアップ企業等
 - ◆ 主な文化芸術関連施設等
- | | |
|---|--|
| <p>A 京都駅南部エリア活性化方針</p> <p>C 久我・久我の社・羽束師地域の総合的なまちづくりビジョン</p> | <p>D らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム</p> <p>F 伏見ルネッサンスプラン</p> |
|---|--|

● **南部の市街化調整区域**

田畑が広がる市内有数の田園地帯で、食用米や酒米、各種野菜等の栽培が行われてきました。交通・物流環境に恵まれた地の利をいかし、近接するらくなん進都との相乗効果の発揮が期待できることから、特に国道1号周辺では、地域未来投資促進法に基づく重点促進区域の指定以来、複数の事業者が進出しています。

引き続き、高速道路のインターチェンジに近接するなど、交通利便性が高い場所において、農地などの周辺環境との調和を図りつつ、産業用地の創出を進めます。



南部の市街化調整区域



※ 緑色部分が市街化調整区域

2 地域の発展を支える活気あふれるまち

古い時代から成り立ってきたまちがあり、これからも発展が望まれるエリアや、これからの開発事業等の展開によって活気がうまれる場となることが期待されるエリアです。長年受け継がれてきた地域資源や今後新たに創出される魅力的な拠点のポテンシャルをいかし、南部地域全体を更に活気づけるまちを目指します。

● 竹田駅周辺（地域中核拠点エリア）

鳥羽離宮跡をはじめ平安期に院政の舞台であった頃をしのばせるスポットが点在しており、現在は地下鉄と近鉄が乗り入れる駅があり、その近くに高速道路のインターチェンジが位置するなど、移動が便利なエリアです。

これらの特性をいかし、南部創造の新たな拠点として商業・業務機能などを集積し、利便性の高い良質な居住環境が充実した賑わいと活力に満ちたまちを形成します。

● 丹波橋・伏見桃山・桃山御陵前駅周辺（地域中核拠点エリア）

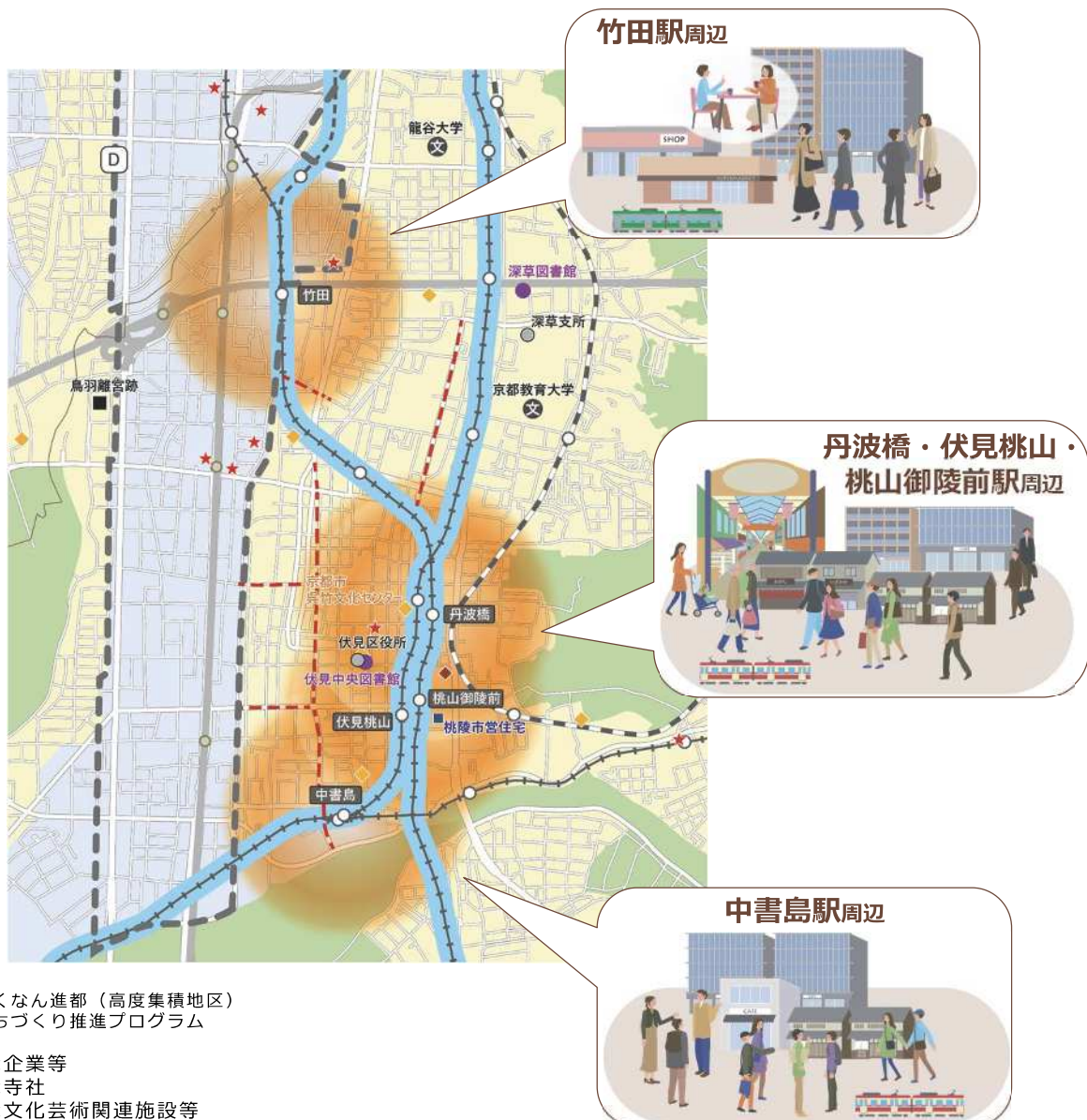
かつて屋敷を構えた大名や、職人たちの業種の名が残る特徴的な町名にも表れているように、町割りを含め伏見城の城下町としての面影を色濃く受け継ぐエリアです。複数の鉄道駅が所在し、高い交通利便性があります。個人や地元企業によるバラエティ豊かな店舗等が魅力の商店街が連なり、日々の買い物も便利な暮らしやすい環境を作っています。

名水の湧く神社や数々の酒蔵など歴史ある市街地の多様な地域資源、団地再生事業によりうまれる将来活用土地等をいかし、住環境とも調和しながら、商業・業務機能の立地を進めるなど、更なる賑わいの創出を図ります。

● 中書島駅周辺（地域中核拠点エリア）

交通の要衝に展開した歓楽街の歴史、さらには昭和の雰囲気や上手に引き継ぐ店が集まる、通好みのエリアです。水の上から周辺のまちの風情を楽しめる十石舟・三十石船も人気です。駅周辺において再開発が検討されている動きがあり、その進展による更なる発展も期待されます。

大阪方面にも出やすい京阪の特急停車駅でもある交通アクセス性の高さや、数々の観光名所からも近いことなどのポテンシャルを更にいかすため、商業・業務機能の充実などによって駅周辺の魅力向上を図ります。



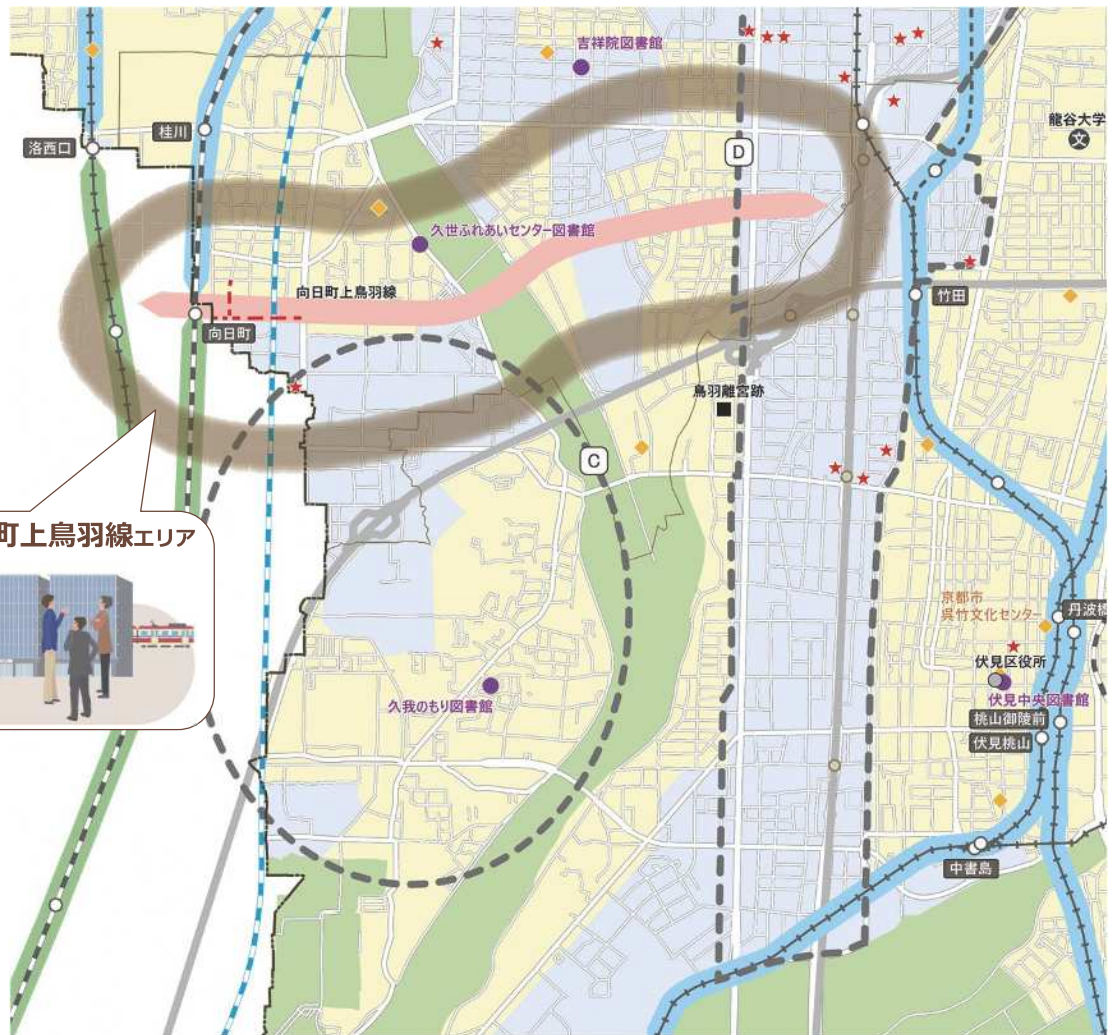
● 向日町駅～向日町上烏羽線エリア

隣接する向日市内で、JR向日町駅周辺における再開発事業が進められており、更なる利便性の向上が図られます。同事業により整備される駅東口の駅前広場まで向日町上烏羽線が延伸することで、本市市域に向かって商業・業務機能が集積することが期待できるエリアです。その流れが、らくなん進都の所在する東の方面まで波及することが期待されます。

● 淀駅周辺（地域中核拠点エリア）

京都競馬場に幅広い世代の方々が訪れるとともに、昭和レトロな雰囲気のある近隣商店街ではイベント等地域活性化に向けた活動もうまれています。桜並木や歴史ある神社・城跡など、地域資源が豊富なエリアです。

競馬場をはじめとする娯楽・レクリエーション機能、大阪方面への交通利便性をいかし、商業機能を充実させ、住環境とも調和しながら、新たな形のオフィスの立地を進めるなど、更なる活気あふれるまちを目指します。



- ★ 主な企業等
- ◆ 主な寺社
- ◇ 主な文化芸術関連施設等



- C 久我・久我の杜・羽束師地域の総合的なまちづくりビジョン
- D らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム

3 誰もがいきいきと暮らせる、多文化・多世代共生のまち

向島ニュータウンでは、約75haに及ぶ広さの土地に、高層住宅・低層住宅、学校、病院、道路、公園等が計画的に配置されています。まちびらきからおよそ半世紀が経過する中、各施設の老朽化や人口減少・少子高齢化、様々なバックグラウンドを持つ住民同士のつながりの持ち方などが課題となっています。

● 向島ニュータウン

市境周辺にスーパーが立地し、ドラッグストアや家具・インテリア店等も揃うエリアで、交通利便性の高い住宅街です。地域の人々が、積極的にまちの活性化や教育環境の充実に取り組んでいます。

公営住宅などの既存施設を適切に維持・活用するとともに、多様な都市機能の誘導を図ることで持続可能な多文化・多世代共生のまちづくりを進めます。



E 向島ニュータウンまちづくりビジョン

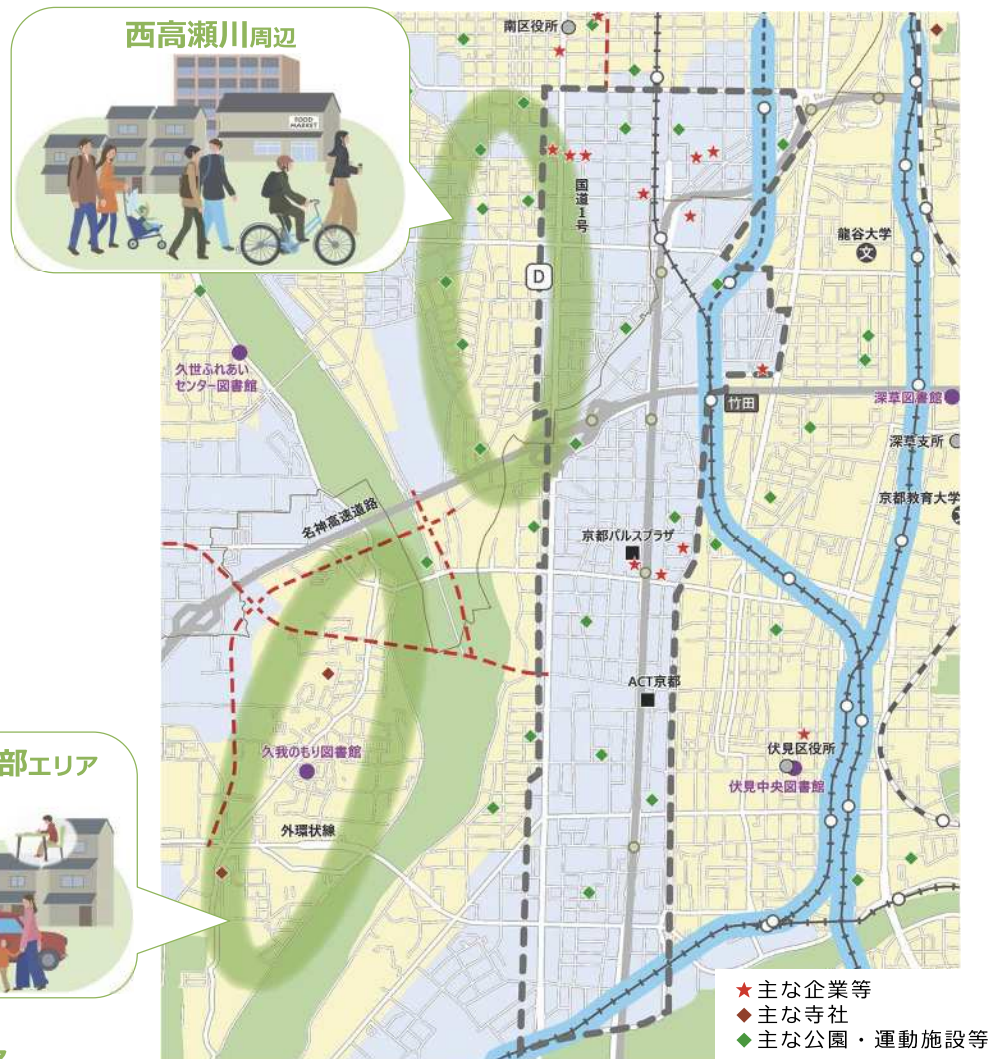
4 働くと暮らすを豊かに楽しむ住みよいまち

古くからの集落を中心に、新たな住宅地が広がっています。鉄道駅から離れてはいますが、らくなん進都など、今後更なる産業集積が期待される「働く場」と近接した住宅エリアです。職住近接の実現により、働くと暮らすをともに豊かに楽しむことができるまちを目指します。

● 西高瀬川周辺

旧千本通を軸に古くから集落が形成され、そこから住宅地が広がってきたエリアです。国道1号や名神高速道路など周辺を大きな道路が走っており便利ですが、公共交通機関が利用しにくいなどの課題もあります。このエリアのすぐ東に位置するらくなん進都鴨川以北では、本社オフィスや生産、研究開発機能の集積が進んでおり、今後ますます働く人が増えることが期待されます。

新しい京都を発信するものづくり拠点で働く人などが徒歩や自転車などで通勤でき、快適に住み続けることができるまちを目指します。



● 久我・羽束師東部エリア



● 久我・羽束師東部エリア

桂川の右岸に広がる住宅街であり、鉄道駅からは少し離れていますが、外環状線や国道1号など大きな道路にアクセスしやすいエリアです。「久我の杜」の名残を残す緑を有した神社、歌枕にも使われた「羽束師の杜」がある神社など長い歴史を持つ古社も点在しています。

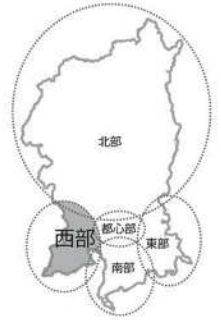
とりわけ、小さな子どもを伴う世帯層など、日用品の買い出しや行楽等に自動車の利用を求める若年・子育て世帯の住まいニーズを受け止めることのできるまちを目指します。

D らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム

第3章 エリア別指針 【西部方面】

■ まちづくりの基本コンセプト ■

先端の学術機能・産業、ゆとりある住宅地、自然や文化など多様な魅力を高め、つなぐことにより、新たな価値やライフスタイルを生み出す



主要地域のまちづくり方針等

- A 京都市山ノ内浄水場跡地活用方針
- B 洛西“SAIKO”プロジェクト
- C 大原野「地域ブランド」戦略

※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

市内中心部や大阪方面等へのアクセス性に優れた鉄道路線や国道の周辺に多様な住宅地が形成されており、ベッドタウンとしての性格を持つ一方で、学術研究機関やものづくり企業が立地するエリアもあります。桂川や西山連峰などの美しい自然、寺社等の豊富な歴史・観光資源、たけのこや柿をはじめとした都市近郊農業など、様々な魅力があふれる地域です。

近隣都市や市内にある各地域拠点とのつながりをいかしながら、多様な都市機能の立地・集積を進めます。また、大学・研究機関に蓄積される数々の知やものづくり企業が磨き上げてきた先端技術、そして古くから受け継がれてきた歴史・文化資源などが、人々の交流を伴いながら融合し、新たな価値やライフスタイルがうまれるまちを目指します。

1 住む人、訪れる人が共に過ごしやすい回遊性のあるまち

国内外の観光客で大いに賑わうスポットもあれば、落ち着いた住宅街が広がる場所もあるなど、異なる顔を持つエリアです。特に、渡月橋の北側においては来訪者の集中、南側においては住環境とのバランスの取れた賑わいの創出がそれぞれ課題です。

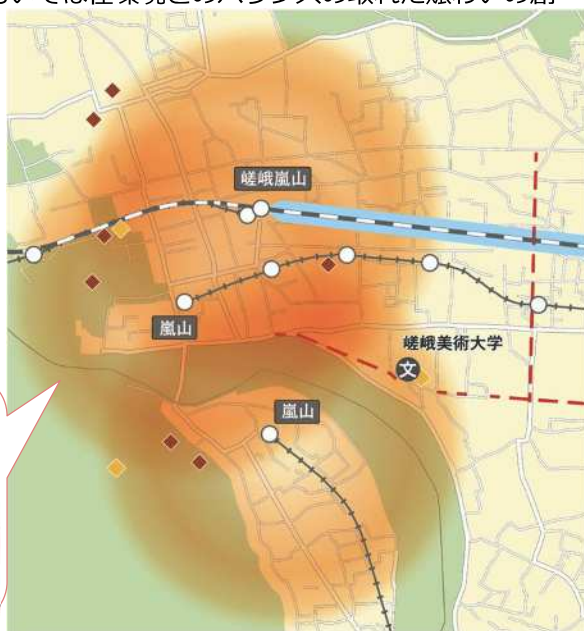
● 嵯峨嵐山・嵐山駅周辺 (地域中核拠点エリア)

平安の昔に皇族や貴族が愛でた四季折々の自然の風景が今も変わらぬ美しさを湛え、百人一首や源氏物語など古典文学の舞台にもなってきたエリアです。JR・阪急・嵐電や路線バスなど、各公共交通機関が近接する場所でもあります。周辺には閑静な住宅街が広がっていますが、地元の人々が食品や日用品等の購入のため日常使いできる店舗が少ない状況です。

住環境と調和しながら、回遊性を高めエリア一帯の賑わいの分散を図ることなどにより、住む人、訪れる人の双方にとって満足度の高いまちを目指します。



- ◆ 主な寺社
- ◆ 主な文化芸術関連施設等



2 ものづくりと調和し、生活利便が整った住みよいまち

● 市街地西部の工業地域

ものづくりに関係する企業のオフィスや生産拠点などが多いエリアですが、最近ではマンションの立地事例も多くなっています。

生産拠点の操業環境の保全・向上と併せて、未来を支える若い世代の市内居住のニーズを受け止め、ものづくりと調和した、生活利便が整った居住環境の創出と、環境負荷にも配慮した職住近接のサステナブルなまちを目指します。



● 西院駅周辺 (地域中核拠点エリア)

工業系地域として各種生産施設が立地しています。また、阪急と嵐電の接続により、多くの学生を抱える大学の通学拠点になっています。駅近くでは周辺の働く人で賑わう飲み屋街の歴史が今に受け継がれており、最近では「京都三大会館」の一角をはじめとするディープスポット、さらには点在するライブハウス等が若者からも注目を浴びています。近隣には病氣平癒の御利益で知られる神社があり、とりわけ毎年秋の行事が盛大に行われます。

都心部や西部、大阪方面への交通利便性をいかし、商業・業務・居住などの多様な機能の複合的な集積を進めます。

● 西大路駅周辺 (地域中核拠点エリア)

様々な企業の本社や生産施設が立地しており、工業系地域の色彩が濃い一方で、近年マンションの建設も各所で見られるようになってきました。JR駅の南側には大規模な商業施設があり、周辺の人々の日常生活を支えています。

駅との近接性もいかながら、周辺の業務機能や生産拠点の操業環境とも調和した潤いある居住環境を創出し、利便性を兼ね備えた拠点を形成します。

- ★ 主な企業等
- ◆ 主な寺社



3 多様な働き方とゆとりある子育てを実現できるまち

高度経済成長長期以降に急速に市街化が進んだ、市内でも比較的新しく形成されたまちが多いエリアです。整った都市基盤や交通利便性をいかし、市内のみならず他都市で働く若年・子育て世帯を惹きつける魅力的な居住環境を創出します。

● 桂駅周辺（地域中核拠点エリア）

広大な回遊式庭園と建築群の融合による美しさが人々を魅了する桂離宮に近く、店舗や事務所等と住宅が混在して立ち並ぶ駅東側、広めの一戸建てが整然と建つ住宅街の駅西側と、駅を境にカラーが分かれるエリアです。特急停車駅であり大阪・乙訓方面への交通利便性も高く、桂イノベーションパーク、京都大学桂キャンパスに向かうバスも多数発着しています。

ゆとりある住環境とも調和した新たな形のオフィスや商業施設の集積を進め、桂イノベーションパーク周辺や他都市で働く若い世代を惹きつける活気あるまちを目指します。

● 桂川・洛西口駅周辺（地域中核拠点エリア）

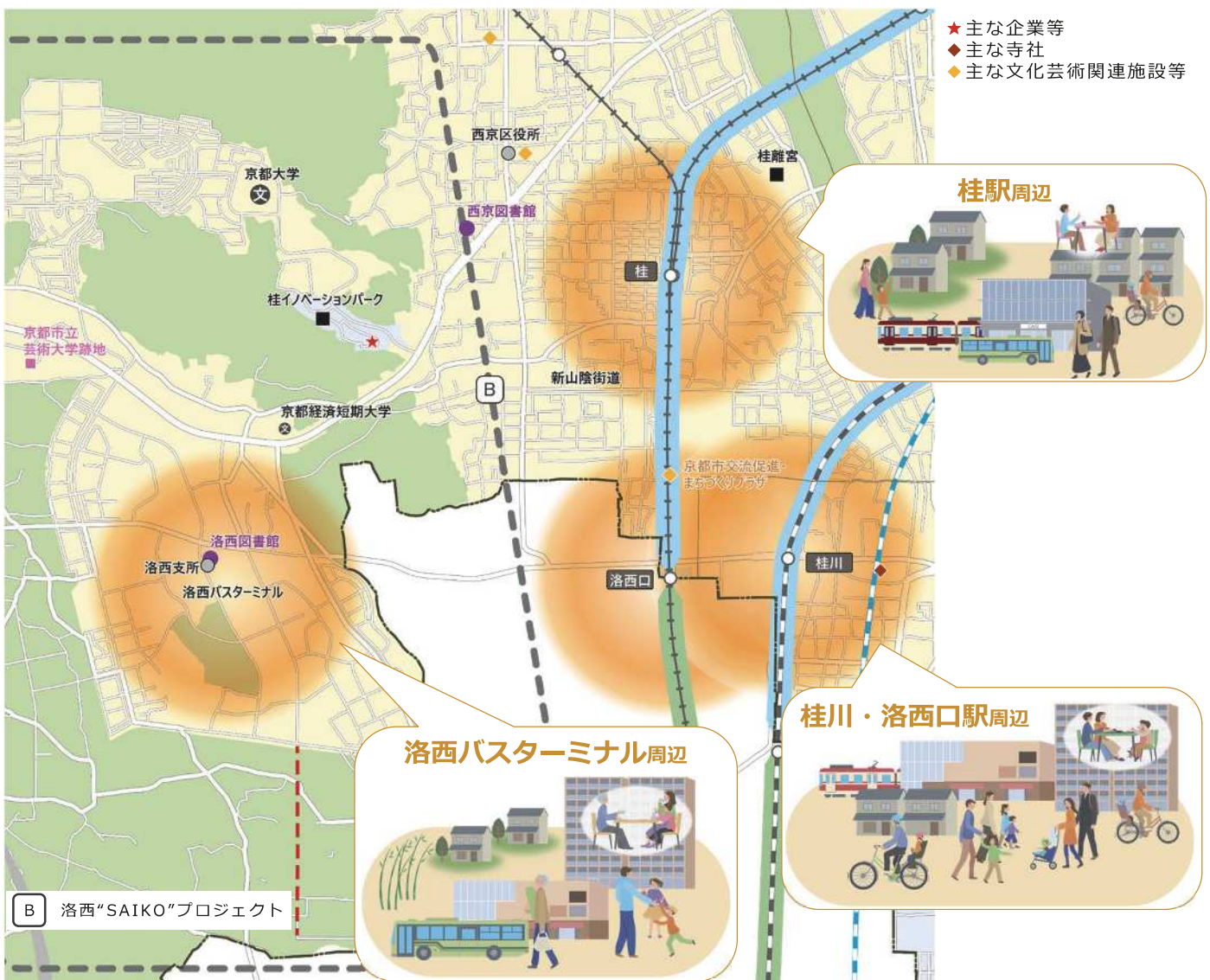
大規模なショッピングモールやマンションが立地する一方、一戸建ての住宅も多く見られるエリアです。駅から東の方面にたたずむ神社の氏子からは、祇園祭の折に重要な役割を果たす久世駒形稚児が選ばれます。JRと阪急の駅が近接しており、市内中心部・大阪方面いずれに出るにも便利です。阪急高架下には多彩な店舗のほか子育て世帯の利用する施設も入っており、地域交流等のためのイベントも多数開催されています。

今後ますます高まることが期待される子育て世帯のニーズを受け止める居住環境の創出を図ります。

● 洛西バスターミナル周辺（地域中核拠点エリア）

洛西ニュータウンの中心部として、区役所支所等の公共施設や、商業施設、金融機関、温泉の湧く宿泊施設など、様々な施設が集積しています。

生活利便機能や交通結節機能を核とした暮らしを支える多様な機能を充実させ、ニュータウン全体の再生を進めます。また、将来の活用の可能性を秘めた京都市立芸術大学跡地では、民間活力によって地域の魅力を高める機能を充実させます。



4 学生や働く人など多様な人が行き交い、集うまち

駅又は主要なバス路線がある交通結節点周辺として、近隣住民、学生、事業関係者など多様な人々が往来しており、それぞれの人の利便性向上に寄与する各種施設も立地しています。高い交通利便性をいかし、周辺の人々を惹きつける多様な都市機能を集積し、更なる賑わいを創出します。

● 円町駅周辺 (地域中核拠点エリア)

スーパーや家電量販店が近くにあり、日常生活に便利なエリアです。カレー専門店がひしめく激戦区として愛好家に注目されており、近年はラーメン店の立地も増え、学生をはじめ若者の姿が多く見られます。事業所も多く立地し、金融機関の支店も集積しています。

多くの通学・通勤者が行き交うまちとして、住環境とも調和しながら、新たな形のオフィスや生活利便施設の立地を進め、更なる賑わいの創出を目指します。



● 太秦天神川駅周辺 (地域中核拠点エリア含む)

地下鉄・嵐電・バスの結節点であり、周辺には一戸建てのほか大規模マンションの立地も見られます。近隣の大学や専門学校に通う学生の往来も盛んです。また、駅から西は、戸建ての住宅街が広がる中、創建が平安京より更にさかのぼる秦氏ゆかりの神社仏閣が今に伝わる古い歴史のまちであると同時に、2つの撮影所、そして映画と共に歩んできた商店街がある映画のまちでもあります。今後、都市計画道路の延伸により、都心部等から西へ向けての活力波及も期待されます。

交通結節点の利便性をいかし商業機能や居住機能をはじめとする多様な都市機能の充実を図るとともに、特色ある地域資源や、大学など多様な主体とも連携しながら、更なる賑わいの創出を図ります。



- ◆ 主な寺社
- ◆ 主な文化芸術関連施設等

A 京都市山ノ内浄水場跡地活用方針



5 豊かな地域資源と暮らしやすさが共存するまち

長い歴史を有する古社、古刹や遺跡がたたずみ、静かな住宅地が広がるエリアです。また四条通周辺においては、企業の製造拠点等が集積しており、多くの人々が働いています。一方で戦後、土地区画整理事業がなされず道路の整備が一部にとどまったまま急速に市街化が進行したエリアにおいては、いわゆるスプロール市街地が形成されており、道路が狭く狭小な敷地が多いなどの課題があります。

● 嵐電嵐山線沿線

古墳が点在し、平安京よりもはるか古代の頃をしのばせるエリアの中に、一戸建ての住宅が数多く立っています。JRや嵐電の路線、丸太町通が走るなど交通利便性が高く、スーパーやホームセンターなども立地しています。

コンパクトサイズであっても一戸建てを求めたい、市内で働く若年・子育て世帯などの住まいのニーズを受け止めることができるまちを目指します。

● 梅津エリア

周辺には企業の大規模な製造拠点が立地する一方、主に一戸建て住宅が一带に立ち並び、スーパーやドラッグストア等も周囲にあります。都心部からは少し離れているものの、四条通からバスでアクセスしやすい、生活利便性の高いエリアです。

コンパクトサイズであっても一戸建てを求めたい、近隣の四条通周辺や市内で働く若年・子育て世帯などが暮らしやすいまちを目指します。



- ★ 主な企業等
- ◆ 主な寺社
- ◆ 主な公園・運動施設等
- ◆ 主な文化芸術関連施設等



6 スポーツ・医療・健康科学などが融合したウェルビーイングなまち

スポーツ、医療、健康科学などに関する施設、企業等が、比較的まとまって所在しています。これらの施設等と地域の人々が相互に関わり合うことで、心豊かな社会が実現したウェルビーイングなまちを目指します。

● 西京極駅周辺（地域中核拠点エリア）

昭和7年の野球場開設以来、数々のドラマをうんできた京都市のスポーツの一大拠点・西京極総合運動公園が所在するエリアです。検討を進めている同公園の再整備により、各スポーツ施設はもとより地域全体の魅力向上も期待できます。

スポーツと関わりが深い方だけでなく、多様な世代、多彩な人たちに十分に活用され、健康的で活発な交流を促進する公園を核とした魅力的なまちを目指します。

● 五条通周辺

五条通沿道に西京極総合運動公園、京都市立病院、京都リサーチパークが立地しており、これらがつながることで、スポーツ・医療・健康科学などの分野でイノベーションがうまれる可能性を秘めたエリアです。

周辺の大学等との連携も視野に入れながら、関連する分野のオフィス・ラボの軸の形成を目指します。

五条通周辺



西京極駅周辺



7 新しい産業が生まれ、成長するまち

新旧の山陰街道と国道9号が交わる交通の要衝で、山々の緑に囲まれた環境の中、未来に向けた様々な研究や事業が展開されているエリアです。一方で、スタートアップ・ベンチャー企業が入居する公的インキュベーション施設は高い入居率で推移しており、更なる活動の場が求められています。

● 桂駅～桂イノベーションパークエリア

産学公連携による新産業の振興拠点として設置された桂イノベーションパークが所在し、様々な知の集積とこれまでにない事業への挑戦が日々重ねられています。周辺の京都大学桂キャンパスでは、工学系の学生が研究にいそんでいます。また、特急停車駅であり交通利便性が高い桂駅へのバスが多数発着しています。

今後ますます高まることが期待されるスタートアップ・ベンチャー企業のニーズを受け止め、桂イノベーションパーク周辺において、働きやすい都市環境の向上を図るとともに、この地で生まれた先端産業を更に発展させるため、桂駅までの幹線道路を中心にオフィスの立地を促進します。

- ★ 主な企業等
- ★ 主なスタートアップ企業等

B 洛西“SAIKO”プロジェクト

桂駅～桂イノベーションパークエリア



8 地域特性をいかした産業を軸に、愛着を持って住み続けられるまち

市内でも農業の盛んなエリアで、たけのこ、なす、米、ほうれん草など四季折々の特産品があります。既存集落における良好な住環境の維持に向けた取組が進んでいます。

● 大原野エリア

西山連峰のふもとに田畑が広がる、山里の風景が懐かしさを呼び起こすエリアです。山手へ向かえば、平安京又はそれ以前の頃に創建された神社や寺院が数々立地しています。

都市部からほど近い一方で豊かな自然と農ある暮らしがある「トカイナカ」としての魅力大切に、既存集落の住環境や生活環境を更に充実させ、良好な交通アクセス等地理的特性をいかした産業などの振興により、定住・移住を促進し、市域全体の潤いと豊かさにつなげます。

C 大原野「地域ブランド」戦略

大原野エリア



第4章 実現方策

1 戦略的な都市づくりの進め方

○ 多様な主体による都市づくり

多くの地域で、地域コミュニティを単位としたまちづくりが行われており、今後も市民・事業者・行政の協働によるまちづくりを進め、地域の良好な環境や価値を維持・向上させます。

○ 都市計画の柔軟な見直しと活用

土地利用の動向や都市施設の整備状況、社会経済動向の変化などを踏まえて、必要性や実現性、効率性を十分に検討のうえ、適時適切に都市計画手法などの活用を図ります。

○ 京都の特性をいかした都市づくり

豊かな自然、優れた景観、長い歴史に培われた文化、地域コミュニティ、伝統産業、知的財産など、様々な有形無形の資源・資産の蓄積をいかし未来へ引き継ぐ都市づくりを進めていきます。



○ 大規模な活用可能地等での戦略的な土地利用

京都の活力の維持・向上を進めるうえで貴重な財産として、都市の空洞化や無秩序な開発を招かないよう、計画的・戦略的な土地利用を図ります。

○ 魅力ある公共空間の創出

学校や図書館、区役所、公園や広場といった公共空間は、学問・芸術・技術などそれぞれの分野で優れた識見を有する「京都学藝衆」と市民が活躍する舞台となる可能性を宿しており、地域のまちづくりに大いに寄与するよう、積極的に活用を図ります。

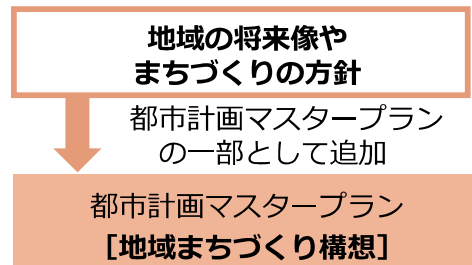
○ 公共施設の有効活用、再編等

公共施設については、施設の持続可能性を検討するとともに、まちの活性化や、地域の人材交流拠点の必要性の高まり等を踏まえた、より戦略的な活用を重視した取組を推進します。



2 地域まちづくり構想

個性豊かで魅力的な地域でのまちづくりを円滑に進めていくために、住民・事業者・行政をはじめとした多様な主体により、地域が本プランの都市計画の方針に沿って検討した地域の「将来像」と「まちづくりの方針」について、本市が都市計画審議会に報告したうえで、本プランの「地域まちづくり構想」として策定し、積極的に支援していきます。



3 立地適正化計画の活用

本市の都市特性を踏まえ、産業の活性化や働く場の確保、都市環境の向上等を目指すための計画として、都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画（持続可能な都市構築プラン）」を定めており、今回これを本プランに統合します。

また、災害リスクを踏まえた災害に強いまちづくりに向け、必要な防災・減災対策を計画的に実施し、居住誘導区域における災害リスクをできる限り回避あるいは低減させることを目的として、防災指針を定め、必要な取組を実施していきます。